興奮再現。

持ち運んで楽しむか

BIG SOUNDS
実用最大出力4.2W
TRK-8030 ¥43,800

クリアでナチュラルな音質の実用最大出力4.2W(2.1W＋2.1W、EIAJ/DC)のパワー。12cmウーハー(中低音域用)と3.5cmツイーター(高音域用)採用のスピーカー・システムが再現するリアルなパワーサウンド、心ゆくまでお楽しみください。

- ●FM／AM2バンドラジオつき
- ●(クロム／ノーマル)テープセレクター採用
- ●フルオートストップ
- ●外部スピーカー端子つき(別売り APS-80)使用
- ●ラインイン、ラインアウト端子、マイク端子(R用、L用各1個)つき



ステレオパディスコ8030 TRK-8030 ¥43,800

●電源DC：9V(単1×6) AC：100V 50/60Hz カーアダプター(別売りD-70) ●大きさ 幅41.2×高さ25.6×奥行12(cm) ●重さ 5.0kg(乾電池含む)

システムパディスコ



組んで楽しむか

パディスコ8030はシステムアップできるラジオカセット。専用外部スピーカー(APS-80)の接続により、迫力あるステレオ・サウンドがさらに倍増。また、プレヤー(HT-320)を接続すればレコード音楽も楽しめます。(MM形カートリッジイコライザー MCE-70が必要)

- ●専用外部スピーカー、APS-80 別売り 2本セット¥11,800
- ●レコードプレヤーHT-320 別売り ¥25,800(レコードプレヤーを接続するにはMM形カートリッジイコライザー〈MCE-70〉別売り ¥4,500が必要です)

▲上の写真はステレオパディスコ8030をシステムアップしたものの一例です。
★カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。
★商品のお問合せ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

品質を大切にする〈技術の日立〉
HITACHI CASSETTE RECORDER
HITACHI

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111
日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)503-2111

★「日立カセットレコーダーの保証書」は必ずお受けとりください。お買い上げの際に、販売店名、ご購入年月日が記入されているかを、お確かめになり、大切に保存してください。

日本男子、オリンピックへ3回連続

日本男子は、難敵・中国に完勝し、ミュンヘン、モントリオールにつづき、オリンピック3回連続出場の宿願を実らせた——モスクワ・オリンピック男子アジア大陸代表決定戦・日本×中国の試合（2回戦制）は、昨年12月8日名古屋で第1戦、翌9日、東京（駒沢）で第2戦が行われ、日本は、みごとなチームプレーと、スピード豊かな個人技によって、中国に連勝、一九七二年以降、3回連続アジアの代表として、オリンピックの舞台へ登場することとなった。

モスクワ・オリンピックへ、ただ一枚の切符をかけた今回のアジア予選は、ハプニングつづきだった。

一昨年くれから、開催地として噂にあがっていた韓国が、まったく、その意思を示さず、会場未定のまま、昨春4月エントリーが〆切られた。

この時、申しこんだのは、日本のほか、クウエート・カタール・韓国、台湾の計5カ国で、このうち、まず、カタールが、IOC（国際オリンピック委）に未加盟であったため、出場資格を失った。

そのあと、開催地が台湾に確定IHF（国際ハンドボール連盟）は、なにを思ったのか、日・韓・台3カ国に、クウエートの航空費一部分担を義務づけ、韓国協会のつむじを曲げさせた。

夏に入り、クウェートは、結局エントリーを取り消し、11月下旬台湾での3カ国による予選が正式決定したが、その1週間前に、中国で第2回アジア選手権の開催がすでに組まれており、日本は、1カ月の間に、二つのビッグ・タイトルマッチをこなさなければならぬこととなった。

こうして迎えた昨年11月、IHFは、突然、IOCからの要請を理由に「台湾での予選勝者」と中国によるアジア代表決定戦開催を示した。

その時点で、中国はIHF未加盟国。

11月末、IOC委員の郵便投票で、中国のオリンピック復帰が決まれば、中国を会長権限によってIHF仮加盟国とし、予選勝者と戦かわせよう、というものであった。

波乱つづきの経過の大詰めにふさわしい(?)、大ハプニングだったが、予想どおり、中国は、IOC委員の圧倒的支持を得て、〝オリンピック・メンバー〟となり、台湾での予選を勝ち抜いた日本×中国の対決が決まったのである。

騒ぎは、しかし、これだけで、おさまらなかった。

闘志をみなぎらせて日本へ乗りこむはずだった中国セブンを、北京空港の濃霧が包みこみ、来日を二日も遅らせ、12月7日に予定された第1戦は、同日昼すぎになって、「1日延期」の措置をこうぜざるを得なくなったのだ。

じりじりとした気持ちで、中国を待ち構えていた日本は、第1戦一気に、その全エネルギーを爆発させた。

4月以来、半年以上にわたるもやもやが噴きとび、中国ゴールを突き刺すたびに、たしかな手応えで、「モスクワ」を手繰り寄せたのである。

第2戦を勝ちとったあと、日本協会首脳陣、コーチングスタッフ選手たちの表情には、歓びよりも安どの色が濃く映った。

「全国関係者、愛好者の支援に心からお礼を申しあげたい」——日本協会・荒川清美理事長の〝勝利の弁〟も、オリンピック3回連続出場の華やかさとは、およそかけはなれた重々しい一言で終った

モスクワオリンピック
男子アジア代表決定戦

◇第1戦（54年12月8日・名古屋市体育館）
日本 35（18－9 / 17－12）21 中国

◇第2戦（12月9日・東京駒沢屋内球技場）
日本 27（11－13 / 16－9）22 中国

代表選手、4～5月に決定か

日本協会は、昨年12月15日東京体育館で開いた常務理事会で、モスクワ・オリンピックの代表選考について協議。

チーム役員（監督、コーチ各1の予定）は、早ければ2月24日の全国代議員会で決定するとし、注目の選手は、JOC（日本オリンピック委）からの派遣人数が決定したあと、4月末か5月上旬にかけてソ連・東ドイツに強化遠征（予定）したあと決定することとなった。

また、6月21日東京体育館で壮行試合の開催を内定した。

▼第22回モスクワオリンピックハンドボール競技は今年7月20日（日）から30日（火）までソコルニキ・ディナモ体育館で開催される。

「ハンドボール」
55年2月号（第182号）目次

【表紙写真】オリンピックアジア代表決定戦日本―中国第2戦・斉藤(将)のシュート決まる（54年12月9日・駒沢）
スポーツ・イベント社提供

◇モスクワ・オリンピックアジア代表決定戦

日本、多彩な攻撃で快勝

第1戦は12月8日午後6時7分から名古屋市体育館で行われた。審判＝K・ヒュースベイ、A・クリスティアンセン（ともにノルウェー）、公式計時員＝岡前義春（日本）、観衆＝千八百・満員

日本 35（18−9、17−12）21 中国

	【中国】	得	【日本】	得
GK	謝維勇	0	大畑	0
GK	周森林	0	福井	0
FP	陳志軍	4	津川	3
FP	張新安	1	斉藤将	0
FP	王雄	3	山本	6
FP	金百煉	3	大原	3
FP	李英才	1	穂積	4
FP	張生	2	蒲生	11
FP	呉明群	1	関	4
FP	李太平	5	中本	0
FP	宋安文	0	池ノ上	3
FP	曹久利	1	柳川	1
PT		(2) 21		35 (6)

後記

杉山　茂
（NHK運動部）

○…一つの不安があった。一週間前ほどに会った竹野監督が、どうも、いつものような〝自信〟を示してくれなかったのだ。

「頼りは、乗りこみのアジア選手権で勝っている、というそれだけですよ」とも、云った。

体力的、技術的、戦術的に、中国の力が、相当なものであることは、伝えられていたが、こうしてごく最近、戦ってきたナショナルチームのリーダーに、生々しくそのパワーを聞くと、「日本絶対有利」の見こみを「六分四分」あるいは「互角」かな、などと変えなければならなくなる。

○…来日した中国、十三年ぶりに見る彼らは、大きかった。竹野監督に聞いたスピードと技巧を、この身体で繰るようなら、かなり強敵だろう。

一方の全日本。南京−台湾とビッグトーナメントがつづき、連勝で乗り切ってはきたものの、恐らく、心身をすりへらしての毎日だったハズだ。

そこへ、突然の中国戦。しかも第一戦が二十四時間遅れるというらだち。

スタンドを埋めつくした二千近いファンも、なにかしら緊張している。

日本で行なう久々のタイトルマッチは、こうした状況のなかで、ホイッスルが吹かれた。

○…先取点は、日本があげた。1分10秒、山本のサイド攻撃がPTを得て、蒲生が決めた。

中国は正攻法、上背それにジャンプ力を利しての中央突破だ。1分45秒、ポストから張。

5分、日本のミスを拾った中国は、陳のなだれこみで初のリード（3−2）、予想どおり、中国の攻めは早い。

スナップの利いたパスは、それだけで、日本のディフェンスの腰を浮かさせた。

しかし、日本の攻撃も、6分を過ぎてから、エンジンがかかったサイドから大原、左45度から蒲生が射ちこんで4−3と再び先行、さらに8分蒲生のPTで、初めて2点リード。

○…中国も、すぐ態勢を立て直す。9分陳、11分張。

このあと約10分、激しい点のとりあいがつづく。

13分、中国が大型選手の切りこみであけた穴を、李がものすごいスピードでかけ抜けて得点するファインプレーを見せれば、日本も17分、大原が左45度から鋭く右へ流れながら、そのままの姿勢でシュートを放って決めるという美技で応酬した。

○…日本は、この10分間に7−5、11−9と二度2点差をつける場面があった。

ところが、中国には、そのあとを持ち応える粘りがあった。

積極的なヨーロッパとの交流で身につけた試合運び、といえる。

20分11−12としたところで、蒲生に王を密着させたのも考えた策だ。

一つの勝負どころとみたのだろう。前半の残り10分にスパートをかける──これも、東欧勢のよく見せる手である。

だが、日本は、ここで、主将・津川が、FTから意表をつくアンダーシュートを成功させ13−11、気をよくした津川が、つづけて、もう一本決め14−12、これで、すっかり、流れが日本に傾いた。

津川のアンダーシュートは、日本にツキをもたらし、中国は逆に下り坂に誘いこまれる。

○…実は、ここで中国は、二回ラッキーチャンスをつかみかける日本攻撃陣が、凡失を重ね、一気の逆襲に持ちこんだのだ。

ところが、前半なかばから、先発の大畑に代っていたベテランGK福井が、もののみごとに、このピンチを防ぎ止め、中国の粘りを断ち切ったのである。

中国は、2回のうち1本でも決めていれば、戦局は、ますます、もつれたものになったろう。

それだけに、福井のキーピングは、勝因の一つとしてははずすことはできない。

日本は勢いづく。29分津川が正面から割り、ハーフタイム寸前、福井−穂積−大原−関と渡して17−12、あっという間のたたみかけだった。

こうなれば、戦前の不安は消しとぶ。

10分間のハーフタイムに、試合前の緊迫はすでになく、日本のロッカールームには、応援のJOC日本体協関係者の、景気のいい激励が相次ぐ。

○…だが、竹野監督に試合後聞くと、この時点での5点差では安心できなかったという。

彼が、勝利を確信したのは、後半開始直後、4分間に蒲生のカットイン、山本の速攻などであげた4点連取の時だ。21−12。前半終了間ぎわからここまでにみせた日本の多彩な攻撃は〝爆発〟と呼べるようなエネルギッシュなものだった。長い緊迫の日々の終末は、意外にあっけなかった。

さしもの中国も、この9点差で闘志を失くし、一気に疲れが出たのか、ラフなプレーものぞき、時間の経過とともに、点差は開くばかり。第2戦での逆転も不可能な14点差は、日本のモスクワ行きをこの場で認めることとなった。

◇◇◇◇◇

頑張れ　日本！

◇◇◇◇◇

日本、速さと巧さで連勝

第2戦

第2戦は、12月9日午後3時38分から、東京・駒沢屋内球技場で行われた。審判＝A・クリスティアンセン、K・ヒュースベイ、公式計時員＝岡前義春、観衆＝二千三百

日本 27（11－13、16－9）22 中国

得	【日本】		【中国】	得
0	福井	GK	刘貴	0
0	井藤	GK	周森林	0
2	岸川	FP	陳志軍	2
1	穂積	FP	張新安	3
3	蒲生	FP	金百煉	4
6	大原	FP	李英才	3
5	山本	FP	王雄	4
5	斉藤将	FP	張生	0
2	斉藤幸	FP	呉明群	1
3	関	FP	李太平	1
0	池ノ上	FP	宋安文	4
0	中本	FP	郭宇生	0
27	（1）	PT	（4）	22

後記

大国拓哉（読売新聞運動部）

○…竹野監督の大きな体が何度も宙に舞った。モスクワ・オリンピックへの出場権をかけた中国との第二戦――大事な試合に勝って、みごと代表権を獲得した選手たちの嬉しさの爆発だ。平均身長1m82の体がコート場で跳びはね、ぶっつかり合った。「選手がよく頑張ってくれました。嬉しいです」。昨年来「目標はモスクワ」といい続け、選手の尻をひっぱたいてきた同監督の表情はゆるんだ。

○…第一戦に勝った日本選手たちにとって「あと一勝」は精神的な重圧になっていたのだろうか――。スタートから動きがにぶく、パスが通らないなど凡ミスが目立って苦しい試合運び。4分斉藤将の2本目のシュートで2－1と再度リードを奪ったが、それもつかの間5分には金にリバウンドを、8分には李英に速攻をそれぞれきめられて2－3と中国に逆転された。その後も中国の強引なカットインにあって3－5、5－6とリードを許し、日本は後手後手にまわった。その日本が反撃のきっかけをつかんだのは、小柄な山本、大原の両サイドから切り込むシュートだった。15分30秒、大原が一人時間差で中国ディフェンスにゆさぶりをかけると、ジャンプしたまま体ごと飛び込むように、ゴール左スミにシュートをきめて6－6に追いついた。そして、斉藤将のシュートをなかに17分には山本、20分にはまたも大原とゴールを襲い9－7とリードして、中国を日本ペースに引き込み、前半を16－9の優位で終えた。前半得点のうち10点を山本（4）、大原（6）のコンビが記録したもので、この二人の活躍が、前半の重要なポイントになったことはいうまでもない。

○…日本は後半に入っても山本のシュートをきっかけに7分には20－12と差をさらに広げた。しかしその直後山本、大原が徹底的にマークされたこともあって中国の逆襲を浴びた。宋、李英の素速い動きで着実に得点に結びつけられ、22分には21－19と3点差まで急迫された。こうなると満員のスタンドに「日本危うし」のムードがただよい、中国がシュートするたびに「キャアッ」と悲鳴に近い声があがった。この声に目覚めたように日本はよく踏んばった。ディフェンスを固めて中国の反撃を食いとめると、蒲生、関が中国ゴールへ突っ込んで勝利をつかんだ。

○…勝ったといっても、後半中国に反撃をやすやすと許したのは感心できない。中国が強くなっているといえば、それまでだが、どんなに差が開いても「スキあらば」とねらう、あの粘り強い精神力はぜひ見習うべきだろう。中国の陳梅金監督は「日本は技術的には中国より上」といいながらも「世界的レベルからみると、ヨーロッパの中ぐらい。もっと鍛えて、オリンピックでは、われわれの分も頑張ってほしい」といっていた。勝って喜びにひたる選手には酷かも知れないが、陳監督の言葉を素直に激励と受けとめ、モスクワまでのあと半年間、技術面はもちろんだが、どんな重圧をも、はね返す強固な精神力を、厳しい練習で、ぜひ習得すべきではないか――。

中国代表チーム

- 団長　黄　青光
- 副団長　盧　玉振
- 監督　陳　梅金
- コーチ　李　宝菜
- ドクター　宋　長春
- GK
  - ①謝　継勇（25才）184cm 90kg
  - ⑫周　森林（24）179　72
  - ⑯刘　貴（24）191　80
- FP
  - ②陳　志軍（24）192　88
  - ③呉　明群（24）190　85
  - ④李　太平（25）191　90
  - ⑤張　新安（26）190　88
  - ⑥王　雄（24）186　77
  - ⑦金　百煉（26）187　80
  - ⑧宋　安文（21）187　95
  - ⑨夏　柳（24）182　74
  - ⑩李　英才（25）179　74
  - ⑪張　生（21）186　76
  - ⑬郭　宇生（27）183　75
  - ⑭曹　久利（22）185　78
- ○内数字は今回来日の背番号

◇モスクワ・オリンピックアジア代表決定戦



オリンピックアジア代表決定戦　日本対中国
提供　新井　節男

日中戦コートサイド

″″″″″″
竹野監督ら初舞い

◇…日本が、ファンの前で、直接、オリンピック行きを決めたのは実は、今回が初めてだ。

ミュンヘンの時は、韓国―イスラエル戦で、韓国が敗れたため、自動的に日本が代表となり、観戦中のスタンドで″祝福″となった

モントリオールの時は、男子がイスラエルで、女子がアメリカ（ミルウォーキー）で代表決定戦が行われたため、ほんのわずかな日本人しか、その場に居合せていない。

それだけに今回の勝利は感激的報道陣の注文もあって、竹野監督東コーチ、津川主将らが、選手たちの手で、いくども宙に舞った。

″″″″″″
気の毒だった強行日程

◇…「日中友好のために来たので、試合の結果は、気にしません」――中国・陳梅全監督は、予想以上のスコアによる連敗のためか意外にサッパリとした表情だった

それに、来日直前、飛行機のトラブルで、北京空港に三日間も待機され「とても、試合をできる状態ではなかった」（陳監督）のだ。

このため、第一戦の日程が一日遅れるという日本側も、大慌てさせられたが、成田に着いて、休む間もなく名古屋行き、その翌日第一戦、試合終了後東京へ戻り、次の日が第二戦というスケジュールは、たしかに気の毒。

日本協会関係者も「ベストコンディションで戦かわせたかった」と同情を寄せていた。

″″″″″″
千二百人もいる″第一線″

◇…来日する中国メンバーにしきりと気をもんでいたのが、日本のコーチングスタッフ。

それというのも、11月のアジア選手権（本誌既報）で顔合せした中国がベストメンバーであったかどうかは、はっきりしなかったからだ。

特に、親善試合で立ち寄った上海などに、ナショナルクラスの好選手が多く、しかも、上海チームは、西ドイツが折り紙をつけたほどの実力だ。

こうした心配をよそに、中国はアジア選手権とそっくり同じメンバーで来日。黄清光団長は「上海の選手は若いので、このあと、いくらでもチャンスがあるハズです」と語っていたが、同団長は「第一線競技者と呼べる人口は、男女合わせて千二百人程度とこともなげにいった。

これらの選手が、国をあげての強化路線に乗った時を考えると、安閑としてはいられない。

″″″″″″
年内に日中交流か

◇…第二戦後のお別れパーティで、中国・黄団長と日本・荒川理事長の間で、今後の「日中交流」が話し合われた。

中国側は、今回の決定戦開催に対して、日本協会に多大の感謝を示し、五十五年内に、日本の男女ナショナルチームを、中国に招きたい。ということだった。

日本側は「日程さえ折り合えば」と、この招待を内諾した形で、日・中の間は、今後ますます親密さを、増していく感じだ。

なお、中国男子ナショナルチームは、新春1月なかばから西ドイツへ遠征することが、決まっている。

″″″″″″
穂積が公式国際戦50回

◇…全日本、穂積豊彦選手（湧永）が、中国第2戦で、公式国際試合出場50回をマーク、12月の全日本総合選手権時に、日本協会から表彰をうけた。

公式国際試合出場50回は、これまでに木野実、本田洋、中井武三藤中憲二、蒲生晴明、花輪博、佐藤要二の七選手がマークしており穂積は史上八人目。

外国・特にヨーロッパのナショナル選手には、公式戦百試合出場選手も数多くいる。しかし日本選手の場合ヨーロッパと比べ、地理的ハンディがあるので、この50試合出場の記録はなみたいていのことではできない。

今後一層の活躍を期待したい。

″要所で決まったお家芸″

ミュンヘンオリンピック代表選手
飯田信行

名古屋での第1戦快勝後、全日本の各選手の表情は、ようやく余裕が感じられた。

それだけに、第2戦の勝利も疑がう余地は、まったくなかったわけだが、国家をうしろ立ての中国だけに、試合時間が近づくにつれ、選手たちの顔は、再び緊迫、いかにもタイトルマッチらしいムードとなった。

その緊張をほぐしたのが開始55秒、この日動きの良い、斉藤(将)の力強いピボット・シュートだ。中国は2分にPTを王が着実に決め、11番張から金へのスカイプレーが決まり、又守ってはGK刘が、読みのいいゴール・キーピングで、ノーマークを止めるなど中国も緒戦とちがって好調な攻守だったが、全日本は20分すぎ大原が左サイドから切れるようなシュートを決めたのをきっかけに、関、山本らの速攻で着々と加点、24分からの5分間4点を連取。しっかりと主導権を握った

第1戦の時もそうだったが、全日本は、ここぞという時に、得意の速攻を決め、相手を突き放す力が出てきたのはたのもしい。要所でお家芸を決めるのは、ビッグゲームを勝ちとる大きな条件なのだ

こうしたところでのリードはその後の展開に余裕をもたらすもので、この試合では、後半22分22―19とされた場面に活きた

ここを持ちこたえた全日本は23分蒲生が技とく決め、GK福井の超美技などあって押し切った。

この試合ぶりが、檜舞台で東欧勢相手にも発揮できるようになればと思ったが、まずは、ミュンヘン以降、3回連続のオリンピック行きをはたした日本チームに、拍手を送りたい。（中村荷役運輸勤務、同志社大OB）

北朝鮮、日本男子を今秋招待へ

中国のIHF仮加盟など、激しい動きをみせるアジア・ハンドボール界だが、注目の朝鮮民主々義人民共和国（北朝鮮）から、このほど日本協会へ、今秋10月、日本の男子代表チームを招待したい旨の連絡が入った。

同国は、すでにIHF、AHFの正式メンバーで、数年前から、その活動が伝えられていたが、国際舞台には、なかなか姿を現わさず、ベールに包まれていた。

それだけに、突然の招待通知は日本協会を驚ろかせているが、日程の折り合いさえつけば、初の交流が、実現しそうだ。

正式には、2月の全国理事会にはかられることになろう。

和田旬功氏に功労章

長崎県の体育功労者として長崎協会副会長・和田旬功（ときひろ61才）氏が、このほど表彰をうけた。

和田氏は、日体のOBで、初代の日体メンバーとして知られ、戦前のビッグゲームにほとんど名を連ねた。

昭和33年佐世保協会、38年長崎県協会の設立に努力され、現在は日本協会代議員、九州協会副会長などをつとめ、いぜん、ハンドボール界の発展に力をつくされている。今後とも御助力のほどお願いしたい。

日本スポーツ賞に氷見高

読売新聞制定の日本スポーツ賞ハンドボール部門賞に、日本協会は、今年度は氷見高男子（富山）を推せんすることに決めた。

氷見高は、国体少年の部に3連勝という7人制後初の快挙をなしとげたほか、高校生らしいマナーと、基本に忠実な攻守が、高く評価されたもの。

高校男子チームが、この賞に推せんされたのは、28、32年の桜台高（愛知）、35年の中京商（愛知）、38年の徳山高（山口、女子と同時）41年の明星学園高（東京）につぐ。

AHF理事に荒川氏推せん

12月15日東京で開かれた日本協会常務理事会は、55年4月11日からホンコンで開かれるアジア・ハンドボール連盟（AHF）総会について協議、AHF理事として、荒川清美氏（日本協会理事長）を推せんすることになった。

同総会では、今夏8月モスクワで行われるIHF総会で決まるIHFアジア選出理事問題が、議事の一つにあげられている。

23日理事会、24日代議員会

日本協会は、10月開かれる予定だった全国理事会と定期全国代議員会を、2月23日・24日の両日熱海と岸記念会館で開く。






東京ゴルフ倶楽部



プレス・ルーム <22>

杉　山　　茂

（NHK運動部）

■女子の敗北を素通りさせるな

中国戦（オリンピック・アジア代表決定戦）を前に、全日本男子・竹野奉昭監督は、いつもの彼に似合わず、弱気ともとれる言葉を吐いていた。

中国の無気味な力を、彼は、恐れていた。アジア選手権のメンバーが、ベストではなさそうだ、というのである。

歯がゆいことだが、こうした時なかなか、僕らは、お手伝いできない。

中国に限らず、韓国にしたってヨーロッパ勢にしたって、タイトル・マッチを前にすると、メンバーの発表をしたがらない。

それでいて、「ハンドボール、バスケットボール、バレーボール……、いずれもアジア代表になるだけの準備を終えたつもりです」といった中国のスポーツ関係者の話は、実に巧いタイミングで送られ日本陣営をゆさぶる。

竹野監督のほか全コーチ、津川主将、エース蒲生らも、十二月に再招集されて以来、寝つかれぬ日が多かったらしい。

そうした〈神経戦〉を勝ち抜いてのモスクワ行き。これでまた、いちだんと全日本の心、技はたくましくなるのではないか。

苦しいだろうが、アジア内部に強敵が増えることは、よいことだ

アジア代表さえとれれば、本番では善戦でOKといった安易な気持ちが、日本協会周辺になくなるだろう。

それだけによけい、今回の男子の勝利に酔いすぎて、女子の敗退の反省を素通りさせてもらっては困る。

中国戦のあとの、日本協会関係者の表情をみていると、どうも、その心配があるのだ。（中国戦勝利を歓び、選手たちの労苦をねぎらうのは、いっこうに構わないが……）。

一昨年、世界女子選手権の予選で、韓国に苦汁をのまされたあと日本協会は、〝この問題〟を、どこまで、つきつめ、問いなおしたというのだろうか。

カゲにまわっての、コーチングスタッフ批判ばかりで、なんら、建設性のある女子強化策を生み出してはいない、と思う。

僕個人は、日本協会が、去年一年間、日本リーグ女子の部を中止させるぐらいの、強硬手段を、期待していた。

それほど、深刻な問題だったハズだ。

昨秋九月のヒポ銀行戦にしたって、全日本女子が一試合だけ、という手はない。

誰がなんていったって、今回の女子チーム敗北も、コーチや選手が負けたんではない。日本協会の施策の貧困が、あそこまで、追い詰めてしまったのである。

■日本協会OB名簿の整備を

「OBをだいじにしろよ」――とは、現役時代、上級生や、当のOBから、よく聞かされたものだ

僕が居たチームだけじゃない、どこも、これは同様だ。

なのに、日本協会は、OBを、あまり大切にしてあげていない。

この場合のOBとは、「日本協会OB」である。

去年、4回行われた国際試合で僕は、各会場で、何人かの「元日本協会役員」に会った。

どなたも、日本協会を、ここまでにするにあたって、苦労されてきたかただ。

なのに、大半のかたが、窓口で入場券を買っていらっしゃる。

「招待券(状)、来ないのですか」

「……」。

日本協会は、地方協会に、分担金を課しているため、招待券(状)は、極力おさえる方針なのだそうだ。

いわゆる〈顔パス〉には、僕も反対だが、功績のあったOBまで招かないほど、主管協会は、切端（せっぱ）詰まったものなのか。

なにも、スタンド正面に、デンと、大きな招待席を作る必要はない。

入場の便宜さえ、はかってあげるだけでいいと思う。

そういえば、日本協会には、古い役員の名簿といったものが、整理されていない。

財団化するのをきっかけに、ぜひ、発足当初の執行部にはじまって、現メンバーまで、「日本協会OB」の名簿を揃えて欲しい。

そうしたことに、手間(てま)をかける人がいないなら、及ばずながら、僕が、お手伝いしてもいい

ただし、名簿が整ったあかつきには、大きな催しの時、皆さんを招待していただけることが条件だ

日の丸のユニホームをつけた選手、関係者の名簿というのは、数年前、村田弘氏（元全日本男子監督）の骨折りで、ととのっているが、これも、補充していく人がいないと不完全で終ってしまう。

「古い話になると、あまり、よい思い出がないから」などというOBもいるが、そうしたことこそむしろ、早々と、のどもとを通り抜けさしてしまうにかぎる。

もっとも、昨夏の西ドイツ戦の時は、本誌編集委員が、切符をもたずの入場をことわられている。

若い情熱家の彼は「そうしたものか」と思って、入場券を買って入り、本誌の取材を手伝ってくれたが、あとで、「いったい、どういう人が日本協会を、真けんに考えていこうとするのですかね」と。OBまで、とても気の廻らないわけだ。

湧永薬品3度目の栄冠

～全日本総合選手権31回～

女子はビクターが大逆転勝利

第31回全日本総合選手権大会は、12月12日から16日の5日間、東京体育館に男子24、女子16のトップチームが集まり熱戦を演じた。男子ナショナルチームが、オリンピック出場をかけたアジア代表決定戦で快勝した直後の大会だけに初日から活気あふれる試合が続いた。

男子では、特に前半戦でクラブチームのめざましい活躍があり、大会を一層盛り上げた。しかし、準決勝以降は日本リーグ勢がその力をいかんなく発揮し、日本リーグ勢の争いとなった。決勝は湧永薬品（広島）が終始大同特殊鋼を攻め、3年ぶり3度目の優勝を果した。

女子は、日本リーグ勢が圧倒的な強さを見せた。準決勝へは、日本ビクター、ジャスコ、日立栃木、大崎電気の4チームが進出したが決勝は日本ビクター（茨城）ジャスコ（三重）の対戦となった。前半ジャスコが10－4とリードし、宿願のタイトルを得たかに見えたが、後半ビクターは大反撃に転じ昨年のブラザーに勝る大逆転劇を演じた。これでビクターは5度目のタイトル獲得となる。

男子（24チーム）

▽1回戦

コンドルズ（茨城教職） 25（14－11／11－10）21 セントラル（神奈川・実）

全宮崎ク（宮崎・社会） 36（20－11／16－5）16 東京重機（東京・実業）

自衛隊勝田（茨城・自衛） 23（7－14／16－7）21 法政大（東京・学生）

大崎電気（埼玉・リーグ） 29（19－14／10－9）23 筑波大（茨城・学生）

慶応大（東京・学生） 32（18－10／14－7）17 日鉄建材（大阪・リーグ）

湯沢ク（秋田・社会） 23（13－8／10－11）19 スワロー（兵庫・教職）

栃の葉ク（栃木・教職） 26（14－9／12－11）20 三景（東京・開備地）

都島ク（大阪・社会） 22（13－12／9－9）21 丸善石油下津（和歌山・実）

○…例年第一日目はシードチームが出場しないため、盛り上りに欠ける試合だったが、社会人推薦の湯沢、全宮崎、都島クラブや自衛隊勝田などの活躍が目立った。

しかし、学生は筑波大と法大が第一回戦で早くも姿を消してしまった。

全宮崎ク惜敗す

▽2回戦

大同特殊鋼（愛知リーグ） 39（20－13／19－5）18 茨城コンドルズ（茨城・教）

日本大（東京・学生） 31（17－15／14－15）30 全宮崎ク

イーグルス（大阪リーグ） 33（21－7／12－7）14 自衛隊勝田

日新製鋼（広島・リーグ） 28（13－7／15－13）20 大崎電気

本田技研鈴鹿（三重・リ） 32（18－15／14－9）24 慶応大

三陽商会（東京・リーグ） 36（19－12／17－12）24 湯沢ク

日体大（神奈川・学生） 37（20－17／17－10）27 栃の葉ク

湧永薬品（広島・リーグ） 45（24－4／21－4）8 都島ク

○…日本リーグチームがその強さをいかんなく発揮し、準々決勝へ駒を進めた。

また学生の2強日体大と日大が勝ち進んだが、日大×全宮崎ク戦はコートサイドを大いに沸かせた。

大同×コンドルズ戦は、遅攻で対抗しようとしたコンドルズであったが、総合的な力の差は明らかで一方的な試合となった。

三陽×湯沢は、前半湯沢の管野らによる活躍で10分に9－3とリードした。一方三陽は近藤監督自らチームをリードし、21分に同点とした。その後三陽は着々と加点していったが湯沢の応戦ぶりが目立った。

湧永×都島は、湧永が圧倒的に押しまくり大差をつけた。都島は最後まで気を抜くプレーをせず、その態度は立派だった。

日体×栃の葉は、日体が立ち上りもたついたものの、その後は冷静な試合を展開した。後半栃の葉が2点連続得点し、5点差につめ寄ったがそこまで。日体大が着々と加点し、逃げ切った。

学生勢4強入りならず
大同ら強豪は順当勝ち

▽準々決勝

日新製鋼 23（10－12／13－9）21 大阪イーグルス

○…相方共に気迫のこもった攻防でエキサイトした。シュート力・スピードに勝る日新がたえず先



湧永×大同②津川（湧永）の豪快なシュート

行して前半を終了した。

後半に入るや大阪のパスミスから日新が差をひろげたが、大阪も必死に追いすがった。後半なかばから大阪のラフプレーが続き、この点に関しては残念なものとなった。（北井）

本田技研鈴鹿 21（13－6 8－7）13 三陽商会

○…試合開始早々、三陽のふんばりにより緊張したが、佐藤要を中心とした巧技の本田が次第に差を広げた。三陽のミスが目立ち、盛り上りに欠けた。（森）

大同特殊鋼 22（14－4 8－10）14 日大

○…大同は立ち上りこそミスが続いたが、藤中のシュートをきっかけに立直り、トリッキーなパスなどでディフェンスをゆさぶり、着々と加点していった。

日大は後半やや気のゆるんだ大同のミスをつき加点したが、大同の楽勝となった。（大塚）

湧永薬品 20（9－7 11－9）16 日体大

○…日体は、湧永の立ち上りを思い切りの良いフェイントを主体に、20分までに主導権を握ったかに見えた。しかし湧永も津川・池の上のクイックで反撃し、23分に同点とした。その後リードされた日体大は4度にわたって同点に追いつきゲームを盛り上げた。

学生の雄、日体大のねばり強い闘志に心から賞賛の辞を述べたくなる試合ぶりだった。

またも湧永×大同の決勝戦

▽準決勝

湧永薬品 14（8－6 6－6）12 本田技研鈴鹿

	【湧永】	得	【本田】	得
GK	福井	0	柴田	0
GK	大城	0	大畑	0
FP	津川	2	田上	7
FP	穂積	1	佐藤	4
FP	藤本	0	喜井	0
FP	志賀	0	豊岡	0
FP	戸田	3	佐々木	0
FP	松本	0	矢野	1
FP	山本	3	西田	0
FP	原田	0	野口	0
FP	生駒	3	高橋	0
FP	池ノ上	2	谷元	0

（審・北井 上久保）

○…立ち上り湧永が走って先行すれば、本田もツーポストから攻撃し、点差をつめた。後半両チームGKの好守で試合を盛り上げた本田は後半16分田上のサイドシュートで同点に追いついたが、湧永・戸田のサイドシュートと大型プレーヤー池の上のロングシュートが冴えて、ねばる本田を振り切った。（千野）

大同特殊鋼 20（10－6 10－3）9 日新製鋼

	【大同】	得	【日新】	得
GK	柳川清	0	三田	0
GK	大園	0	筒本	0
FP	藤中	4	泉	2
FP	中井	3	徳田	3
FP	松原	0	大庭	0
FP	花輪	2	吹上	1
FP	柳川実	2	洞ヶ瀬	1
FP	大原	3	脇若	0
FP	中本	1	森	0
FP	蒲生	2	下茂	2
FP	浦田	1	湯中	0
FP	小野	2	高木	0

（審・佐分 大塚）

○…欠場していた蒲生が今大会初出場し、ファンを沸かせた。

立ち上りからベテラン藤中がピシピシ決め、日新も必死に追いすがった。後半に入るや、ガッチリとディフェンスをしく大同を日新は攻め切れず、逆に速攻をかけられ、点差がひらいた。大同のシュートを再三はじきだしたGKの好プレーがひかった。（北井）

湧永の雪辱なる

▽決勝

湧永薬品 19（11－11 8－3）14 大同特殊鋼

	【大同】	得	【湧永】	得
GK	柳川清	0	福井	0
GK	大園	0	大城	0
FP	藤中	3	津川	3
FP	中井	1	穂積	4
FP	松原	0	藤本	0
FP	花輪	0	志賀	0
FP	柳川実	0	戸田	0
FP	大原	3	内田	0
FP	中本	0	松本	3
FP	蒲生	7	山本	1
FP	浦田	0	生駒	2
FP	小野	0	池ノ上	6

（審・狩野 光鳥）

○…今年度のチャンピオンを決めるゲームらしく、立ち上がりから両チームともに互角のスタートとなった。

大同は藤中、蒲生が良く当たり優位に立った。一方湧永はやや動きが悪かったが、津川の好リードでチャンスをつかみ、13分5対5の同点とした。

20分には池ノ上が、動きの止った大同ディフェンスをうまくつきリードした。

しかし大同は25分、蒲生のPTで同点とし、その後中井がリバウンドを決めて逆にリードして前半が終るかに見えた。ところが湧永は終了2秒前に松本がポストから決めて同点となった。

後半湧永は25秒に池ノ上の中央突破でリードし、一気に4点連続得点した。この間池の上・生駒の活躍が目立った

一方大同は、湧永の素早いディフェンスにリズムをくずし、攻撃が単調になり、ポストの動きも悪くなった。蒲生が一人気をはいていたが終りまでチームの歯車がくるってしまったようだった。



大同×湧永決勝戦
藤中（大同）のシュートを阻む穂積（湧永）

日本リーグ勢勝ち進む

女子（16チーム）

日本ビクター（茨城・リ） 31（15―6 16―4）10 大分東シニア（大分・社）

大和銀行（大阪・大阪協） 21（8―10 13―8）18 東女体大（東京・学生）

立石電気（熊本・リーグ） 26（13―6 13―3）9 大体大（大阪・学生）

日立栃木（栃木・リーグ） 27（14―6 13―5）11 ムネカタ（福島・リーグ）

プラザー工業（東京・実） 24（13―6 11―0）6 東京重機（東京・実業）

大崎電気（埼玉・リーグ） 16（12―5 4―5）10 日体大（神奈川・学生）

北国銀行（石川・リーグ） 14（7―6 7―7）13 日女体大（東京・学生）

ジャスコ（三重・リーグ） 27（15―2 12―4）6 三和・ク（東京・開備地）

○…日本リーグチームの圧倒的な強さが目立ち、迫力の欠けた試合が続いた。ただ北国銀行×日女体大は終始1点を争う好ゲームを展開した。また大和銀行×東女体大も、東女体のねばりで試合を盛り上げた。

▽準々決勝

大崎電気 13（8―9 5―3）12 プラザー工業

○…大崎×プラザーは、大崎が大場のミドルなどで4点リードまでしたが、プラザーも則武らが頑張り一進一退を続けた。残り15秒大崎のPTが決り、逃げ切った。

日立栃木 18（6―6 12―8）14 立石電機

○…日立は水上の鋭いカットインとフリースローにより確実に加点していった。一方立石はプレスして、防戦したが振り切られた。

日本ビクター 19（9―5 10―2）7 大和銀行

○…技術、体力共に一日の長のあるビクターが、追いすがる大和銀行をワンサイドゲームで敗った一戦であった。

ジャスコ 19（9―4 10―6）10 北国銀行

○…攻撃パターンの多様振りははるかにジャスコがまさっており全く危な気なくゲームを進めた。

▽準決勝

日本ビクター 12（7―4 5―5）9 日立栃木

得	【ビク】		【日立】	得
0	鈴木	GK	寺沢	0
0	坂巻	GK	斉藤	0
2	加藤	FP	吉田	2
2	穂積	FP	島田	4
3	小島	FP	大輪	0
2	染谷	FP	箕輪	0
1	伊藤	FP	小根沢	0
0	寺村	FP	水上	2
2	岩城	FP	毛塚	0
0	村上	FP	大高	0
0	池田	FP	上田	0
0	志村	FP	沖山	1

（審・新村・新井）

○…今大会調子の良い日立は、立ち上りビクターにリードを許したものの、10分過ぎ速攻で追いついてから連取5―3とリード。GKの好守もあって日立のムードは良かったが、一寸したポストのマークの甘さをつかれ、前半は同点となり、勝敗は後半に持ち込まれた。しかし後半、日立のシュートは影をひそめてしまい、終盤追いあげたが、大勢には影響がなかった。

日立の攻撃力に力強さが欲しい。

ジャスコ 23（13―6 10―8）14 大崎電気

得	【ジャ】		【大崎】	得
0	山本	GK	中島	0
0	矢野	GK	藤村	0
8	平田	FP	西	4
0	松下	FP	陽田	1
0	林	FP	佐々木	3
3	金田	FP	石井	4
4	横山	FP	大場	2
0	河田	FP	徳渕	0
2	笠	FP	江島	0
1	若田	FP	渡部	0
5	山本	FP	根間	0
0	辻本	FP	宮嶋	0

（審・高橋・山下）

○…大崎は、開始直後の硬さが目立つジャスコをうまく攻撃し、ツキが多分にあり幸先よいスタートをした。しかしジャスコは、持ち前のシステムオフェンスで、松下、横山らベテランの味を示し、難なくはねかえした。

後半はジャスコの独壇場で、河田の突進も冴え、圧勝した。

大崎の前半の健闘は賞されてよいが、個人の突進力・シュート力パスワークの多様性など今後の精進を期待する。



ビクター×ジャスコ戦 加藤（ビクター）のシュート

▽決勝

日本ビクター 16（12―3 4―12）13 ジャスコ

得	【ビク】		【ジャ】	得
0	鈴木	GK	山本	0
0	塙	GK	矢部	0
5	加藤	FP	平田	0
6	穂積	FP	松下	5
3	小島	FP	林	0
0	染谷	FP	金田	0
0	伊藤	FP	横山	1
0	寺村	FP	河田	3
1	岩城	FP	笠	0
1	池田	FP	若田	1
0	高橋	FP	山本	0
0	志村	FP	辻本	3

（審・斉藤・千野）

○…スピード・パワーともにビクターを上回るジャスコは、のびのびとプレーし、GKの好守からの速攻と松下、河田の力強いシュートで次第に点差を広げて前半を終った。

後半に入るやビクターの動きががぜん良くなり、速攻とPT・加藤、穂積のシュートでぐんぐん追いあげ、残り3分で逆転に成功し劇的な勝利をあげた。

それにしても後半なかばからのジャスコは、全く歯車があわず、自滅した感が強い。

東京重機（女子）1部へ復帰

日本リーグ入れ替え戦

注目の日本リーグ男女入れ替え戦は、昨冬12月22、23の両日大阪市立中央体育館で行われ、男子は一部勢が勝ち残ったが、女子は東京重機（東京）が、大和銀行（大阪）と入れ替わる動きがあった。

東京重機は第2回リーグ以来、3年ぶりのカムバックである。

◇男子

三陽商会（東京・1部⑥） 18（8−9 10−9）18 大崎電気（埼玉・2部①）

三陽商会 21（10−10 11−9）19 大崎電気

大阪イーグルス（大阪・1部⑤） 22（11−7 11−7）14 三景（東京・2部②）

大阪イーグルス 20（9−7 11−4）11 三景

大和銀行、2部へ廻る

◇女子

東京重機（東京・2部①） 11（4−5 9−6）12 大和銀行（大阪・1部⑧）

東京重機 11（8−6 3−5）11 大和銀行　引き分け

ムネカタ（福島・2部②） 10（5−4 5−5）9 北国銀行（石川・1部⑦）

北国銀行 13（6−3 7−5）8 ムネカタ

【第1日】○…入替戦は第一戦大和×重機から、熱のこもる、劇的な幕開けとなった。

前半は相手の手の内を探りながら、6−4と大和のリードで終了したが、後半も押しせまって残り3分で10−10の同点からの攻防の凄じさは、両チームで5得点と、エキサイティングな戦いとなり残り40秒で、重機サイド宮田が勝越しシュートを決め、また大和もスローオフから増永の中央突破のフェイント・シュートをキーパー佐久間が手硬く取り、第一戦13−12で、重機が第一戦勝利をつかんだ

○…第一試合の熱気を受けてこの第2試合三陽商×大崎電は、この一年間互角に星を分け合っている両者、前半8−9で折り返した三陽は、後半28分大崎椿原が決め18−17とリードされたが、フリースローから大熊が決め同点とつめ寄り、残り時間一分を切って、大崎が速攻で右45°からのシュートチャンスをディフェンスが防ぐもペナルティーとなり、レフリータイムで、たおれた選手をベンチにさげ、残り11秒でPTの笛が吹かれた。三陽GK田村と大崎斉藤がシュートはGK田村の右足に阻止され、ゲームは引分け、第2戦へと持ち越された。一点を争う緊迫した大熱戦であった。

○…つづく、ムネカタ×北国は前半14分ムネカタ大河原が、右45°より素晴らしいワンフェイントからのロングシュートを決めるなどムネカタ第一戦勝利へと導いた。後半に入ってもムネカタリードで進み一時は3点差まで開いたが、リーグの意地が北国も一点差までに追い上げ第2戦の楽しみとした

○…第1日最後の三景×イーグルスはリードオフマン村田の力強い動きで三景をグイグイと引っ張った、最近の三景では気迫のこもったゲームではあったが、イーグルスの壁を破るまでには至らなかったが、なかなかの好ゲームではあった。

【第2日】○…立ち上り、北国、ムネカタ両チームとも、堅さが取れず、16分8番八本がPTを決め7番千歩のフェイントからのカットインなどでかたさもとれ、その後も8番が4点を取り、6−3とリードして、後半を迎えた。ムネカタも13分9−7と追い上げたが北国も手堅く加点し、勝利をものにした。

○…第1戦で8点差のハンデを負った三景は、前半からスパートし、攻撃も力強く、守ってはGK野田が素晴らしいキーピングで再三のピンチを防いだが、後半に入って辻本の切れのいいシュートが着実に決まり、20−11と差を広げた。

○…激戦の女子。特に、重機×大和は、まったく予断を許さない

重機は前半から速攻で着々と点を取れば、大和はセットオフェンスでじっくりと取って行き、15分大和のPTを好補するも、リバウンドを取ってドリブル・フェイントを持ち込み、再度のPTを宮本が決めるなど第一戦にも増して一段と盛り上ったゲームとなる。後半重機のリードから、大和は再三同点に追いつき、一点リードまではしたが、23分川本が中央へ廻り込んでのあざやかなロングシュートを決め、同点として引き分けた重機、1勝1分で一部リーグ昇格を2年ぶりに果たした大変熱の入ったゲームであった。

○…二日間の激闘をしめくくる三陽×大崎。大崎は全員で攻守によく声も出てなかなかの好スタートではあったが、三陽は止森の好リードから、関が第一戦以上に調子を上げ、10−10と五分で後半を迎えた。好守に上廻る三陽と前半得たPTが5点と得点の半分を占めた大崎が、後半に入ってはそれ程PTも得られず21−19と三陽が辛くもリーグ残留を決めた（I）

■…2日間にわたって繰り広げられた日本リーグ男女入れ替え戦は、近来にない激戦の連続だった。

男子では大阪イーグルスが安定した強さを発揮して一部残留を決めたものの、三陽×大崎戦は優劣つけがたい戦いであった。

女子は東京重機が1勝1分けで3年ぶりに一部昇格をはたしたが2試合の得失点差が1点と、緊迫したものとなった。また北国ムネカタも1勝ずつ星を分け合ったが、北国の一部残留となっている。

日本リーグのより一層の発展のために、今回の興奮を今後とも持続していってもらいたいものである。

第31回全日本総合選手権全国社会人男子各地区代表決定戦

◆東地区（北海道、東北、関東）

湯沢ク（東北） 38（18−9 20−11）20 鶴陵ク（北海道）

関東代表棄権のため、湯沢クが代表。

◆中地区（北信越、東海、近畿）

都島ク（近畿） 14（8−8 6−4）12 蒲郡ク（東海）

都島ク 11（6−5 5−5）10 北農ク（北信越）

北農ク×蒲郡クは行わず。

◆西地区（中国、四国、九州）

全宮崎（九州） 20（6−8 14−9）17 岩国ク（中国）

四国代表棄権のため、全宮崎が代表。

日体，3年連続，日大を突き放す

第22回（女子第15回）全日本学生選手権は昨年11月28日から12月2日までの5日間福岡市民体育館で行われた。

32校参加の男子は今年も東日本勢が強味を示し，ベスト8は6校が関東勢，このなかから日体—日大が抜け出して3年連続優勝を争い，日体が後半15—15から得意の速攻でポイント，3年連続8回目の栄冠を飾った。

17校による女子は，2年連続東女体—日体の決勝となり東女体が快勝3年連続5回目の優勝となった。

女子は東女体3連勝　全日本学生選手権

▽男子一回戦

日体大	22	12—7	10—8	15	大経大
仙台大	29	17—9	12—7	16	鹿児島大
岐阜大	22	12—10	10—11	21	金沢工大
大体大	19	7—9	12—4	13	順天大
法政大	32	18—7	14—6	13	関西大
国士館大	25	12—10	13—9	19	京産大
慶応大	18	10—7	8—5	12	久留米工大
名城大	28	17—5	11—4	9	山口大
中京大	26	14—11	12—7	18	中央大
早大	36	20—3	16—7	10	大阪大
福岡大	28	13—7	15—8	15	北大
筑波大	41	21—12	20—7	19	福島大
近畿大	30	16—9	14—3	12	金沢大
東海大	21	10—8	11—10	18	同志社大
福岡教大	29	12—12	17—11	23	愛知学院大
日大	35	18—10	17—6	16	広島大

▽女子一回戦

大阪成蹊女子	11	2—4	9—5	9	山口大

▽男子二回戦

日体大	30	14—7	16—2	9	仙台大

予想通り日体大は試合開始から全員が軽快な動きで仙台大を寄せつけず優勝候補筆頭の実力を見せつけた一戦だった。

大体大 27（12—6，15—4）10 岐阜大

大体大はつまらないファールが見られたが常に思い通りに試合を運び速攻などで点を重ねた。岐阜大はスピードがなかった。

法政大 16（1—0，1—1，10—9，4—5）15 国士館大

前半は互角の展開となった。後半法政はセット攻撃が決まり波に乗ったかと思われたが，国士館大もパスカットからの速攻などで同等の戦いとなったが，延長の末法政の直井が決勝のゴールをあげた。

慶応大 18（7—9，11—8）17 名城大

立ち上り名城大がハーフ速攻で慶応大の出ばなをくじいたが，GK加藤の好守からペースを取りもどした慶応が前半リードで終った後半，必死で追い上げる名城大の攻撃をかわして辛勝した。

中京大 19（9—7，10—6）13 早大

中央大に勝って波に乗る中京大は，GK上村の好守で前半リードをした。後半に入って互角の戦いとなったが早大はシュートが決まらず，ディフェンスで荒さが見られ結局中京大に押し切られた。

筑波大 35（20—10，15—9）19 福岡大

滑り出しは，一進一退を繰り返すが，前半10分頃から筑波大の速攻で徐々に点差を広げたが残り10分になってようやく福岡大も足が動き始め善戦するも力の差が出た後半は筑波大は確実に得点を重ね大差で勝った。

東海大 27（12—13，15—5）18 近畿大

東海大は大東を中心とする攻撃で前半着実に点数が入った。後半に入ってようやく近畿大もボールが回り始めたが，前半の得点差はいかんともしがたく敗れ去った。

日大 33（17—11，16—8）19 福教大

前半立ち上りから日大は速攻で大きく差を広げたが中盤では，福教大が頑張り2点差としたが地力に差があり16—8で前半を終了，後半もミスの目立つ日大を苦しめたが，およばず大差で敗退した。

▽女子二回戦

東女体大 29（13—2，16—1）3 大阪成蹊女大

東女体大の攻撃力，ディフェンスが大阪成蹊女子大より数段上で一方的な試合運びとなった。

武庫川女大 23（12—5，11—3）8 九州女大

両チームともキビキビした動きの小気味よいスタートとなった。武庫川は多彩な攻めで九州女子大を押し切った。

中京女子大 19（9—4，10—1）5 福教大

前半4分すぎまで両校もたついたゲーム展開であったが，福岡大のフリースローからのシュートが単調なのにつけこみ，中京女子がつけこみ速攻をたてつづけに決め試合を決めた。

大体大 16（11—6，5—7）13 東学大

前半7分すぎまで両校得点のないゲームとなったが大体大浅井のシュートを口火にお互いスピードのある好ゲームとなった。2点学芸大リードで始まった後半，大体大はロング，速攻で18分に逆点，そのままスピードのある動きで押し切った。

日体大 27（16—5，11—3）8 福岡大

立ち上り5分ようやく福岡の先取点で得点が動き始めると日体大は速攻等で点数を重ね圧勝。福岡大は相手ディフェンスの乱れをついて得点したに終った。

中京大 16（8—4，8—3）7 大教大

立ち上り中京大は山本のロングシュートで先行しまずまずの出だしとなった。これに対し大教大は再三サイドのノーマークシュートのチャンスをつかみながら中京大GK綿見の好守に得点出来ず，敗れた。

筑波大 21（10—5，11—1）6 愛教大

立ち上り両チーム共ミスが目立ったが8分すぎから筑波大のペースとなり，後半7分までに連続，

14ゴールを決めて愛教大をつき離した。

日女体大 18（5－4、13－5）9 京教大

前半、日女体大は4点差としたあと雑な攻撃で残り15分ノーゴールのうちに京教大が1点差につめよる好展開となった。後半も10分すぎまでシーソゲームとなったが残り13分になって日女体大は京教大のミスから波にのり連続9得点をあげ粘る京教大を振り切った。

▽男子三回戦

日体大 23（12－6、11－9）15 大体大

東西の王者同志の対決となった前半日体大のディフェンスに大体大は11分間無得点となった。ようやく玉村のシュートが続けて決まり出したが松井を中心に多彩な攻撃を見せる日体大に6点差をつけられ前半終了。後半に入ると大体大のGK矢永の好守で互角となったが20分すぎから日体大GK井藤の好守でそのまま押し切った。

慶応大 17（7－10、10－6）16 法政大

前半まず法政のペースで試合が始まった。一度は慶大が波に乗るかと思われたが、高さに勝る法政のロングが決まり法政リードで前半を終了。後半に入ると法政のロングが浮くところを慶応が速攻につなぎ12分逆点、法政再度逆点するも慶応も粘り、残り1分で慶応2点リードとなったが法政の激しい攻撃で残り30秒PTで1点差、20秒で単独速攻となったがGK加藤の好守に阻れ涙をのんだ。

筑波大 25（8－4、17－7）11 中京大

連日関東勢を破り注目された中京大ではあったが、筑波の高いDFにシュートが決らず前半4点に押えられた。筑波も中京GK上村の好守で8点となったが後半に入ると、ペースをつかみ速攻等で点数を重ね大勝した。中京大のGK上村は今大会の健闘がたたえられる。

日大 31（18－9、13－9）18 東海大

関東一部、二部の力の差がはっきり出たゲームであった。日大は高梨、仲田、山口を中心とする多彩な攻めで東海大を圧勝した。

▽女子三回戦

東女体大 9（6－4、3－4）8 武庫川女大

両校ともスピードのある動きで好試合となった。前半ノーマークシュートの多い武庫川はラインクロス等のミスで得点が重ねられず確実にシュートを決めた東女体大が一歩リードで終った。後半になると東女体大は相手の守りにはばまれ得点できず、武庫川は残り2分同点に追いついた。残り1分東女体の藤本が速攻を決め逃げ切った。武庫川のシュートミスが惜まれる。

大体大 10（6－5、4－2）7 中京女大

スタート大体大は優位に試合をすすめたが中京女大も粘り一点差で前半を終了。後半も互角の戦いとなったが、地力に勝る大体大が追いすがる中京女大を振り切った。

日体大 22（8－4、14－2）6 中京大

立ち上りから日体大は相手のシュートミスから速攻に走り前半ダブルで終わる。後半も日体ペースで始まり、速攻で点数を重ねた。中京は固いDFに阻れ6点のうち4本がPTによる得点となり大敗した。

日女体大 10（3－5、7－4）9 筑波大

前半筑波の先取点に始まり、日女体大すぐ追いつき10分すぎから2対2のまま両チーム加点できずようやく16分すぎから得点が動き始め、前半筑波が2点差で終了。後半に入りシーソーゲームとなったが18分再びリードした日女体大が逃げ切った。小柄ながら筑波のGK長嶋の好守が光った。

▽男子準決勝

日体大 28（15－11、13－9）20 慶応大

前半両チームのセットオフェンスは互角であったが、慶応のミスを日体大が速攻につないで15対11で終った。後半4分には慶応は1点差につめよったが、日体大の速攻が決まり出し、徐々に得点が開いた。

得	【日体】		【慶応】	得
0	井藤	GK	加藤	0
0	阿部	GK	鈴木	0
9	松井	FP	上西	6
0	岩木	FP	大村	1
6	長野	FP	指崎	1
5	坂本	FP	加古	4
5	名嘉	FP	炭本	2
0	溝部	FP	北川	4
1	成願	FP	林	0
1	酒井	FP	志村	0
1	村井	FP	江川	0
0	平野	FP	石塚	2
28	（6）	PT	（4）	20

（審・堀之内・関谷）

日大 22（10－6、12－13）19 筑波大

得	【日大】		【筑波】	得
0	須藤	GK	厨川	0
0	伊藤	GK	佐藤	0
5	高梨	FP	滝口	7
5	仲田	FP	佐々木	1
6	山口	FP	秀永	0
2	早坂	FP	松浦	1
2	金岡	FP	中野	0
0	大鐘	FP	河野	0
2	堀越	FP	矢島	1
0	稲村	FP	山下	0
0	糸	FP	大塚	1
0	馬場	FP	西山	7
22	（2）	PT	（3）	19

（審・片山・槇）

立ち上り日大は多彩な攻撃で筑波の守備陣をゆさぶり又守りでも筑波独得のフリースローシュートを押えて前半リードで終った。後半になって一時2点差まで追い上げたが結局前半のリードを守って日大が決勝にすすんだ。

▽女子準決勝

東女体大 24（10－6、14－1）7 大体大

前半立ち上りから良く動き相手の横パスをカット等から速攻に走り10対6で東女体リードで折り返した後半も東女体の早い詰めで大体大は攻め手がなくなり結局後半はペナルティー1点に押えられ、大差で破れた。

得	【東体】		【大体】	得
0	高松	GK	柴田	0
0	上越	GK	竹山	0
9	磯山	FP	福田	3
2	川波	FP	浅井	3
1	酒井	FP	岡田	1
0	小野森	FP	田辺	0
2	浜村	FP	戸村	0
0	藤田	FP	市原	0
4	藤本	FP	中里	0
0	伊藤	FP	秋山	0
6	鈴木	FP	塚田	0
0	増子	FP	樋口	0
24	（5）	PT	（2）	7

（審・岡村・中所）

日女体大 13（8－5、5－6）11 日体大

得	【日体】		【日体】	得
0	鏡	GK	稲葉	0
0	菅原	GK	岩野	0
4	梅本	FP	矢野	4
2	山田	FP	梅山	3
4	江畑	FP	藤本	0
0	佐々木	FP	峰岸	0
1	佐瀬	FP	鈴木早	0
0	松川	FP	鈴木紀	0
2	鈴木	FP	石井	0
0	桑代	FP	大崎	0
0	石井	FP	加藤	0
0	下山	FP	後藤	4
13	（3）	PT	（2）	11

（審・福田・松尾）

日女体は山田、江畑のロングを主体に日体大は速攻を主体とし、見応えのある好試合となった。日体は負傷で戸栗を欠き苦しい大会となっていたが、ここに来てそれが響いた。前半日体大はミスが目立ち、三点差で終った後半、互角の戦いとなったが、シュートミスで日体大は今一歩およぼす惜敗した。

▽男子三位決定戦

筑波大 22（9－10、13－9）19 慶応大

今大会波に乗る慶応のペースで前半滑り出した。15分まで筑波は攻守にまとまりがなく、7対2とリードされたがようやく波に乗り

得	【慶応】		【筑波】	得
0	加藤	GK	厨川	0
0	鈴木	GK	佐藤	0
8	上西	FP	滝口	2
1	大村	FP	佐々木	2
4	指崎	FP	秀永	2
1	加古	FP	松浦	1
1	炭本	FP	中野	2
3	北川	FP	矢野	5
0	林	FP	大塚	1
0	志村	FP	田中	0
0	江川	FP	西山	6
1	石塚	FP	中浦	1
19 (3)		PT		(2) 22

（審・岡村、中所）

1点差まで詰めよった。後半になって互角の戦いとなったが16分過ぎから慶応のミスから筑波が7点連取し勝利をものにした。GK加藤の冷静なキーピングを中心とした慶応の健闘が讃えられる。

▽女子三位決定戦

日体大 15 (8－5, 7－5) 10 大体大

得	【大体】		【日体】	得
0	柴田	GK	稲葉	0
0	竹山	GK	岩野	0
3	福田	FP	矢野	7
2	浅井	FP	梅山	4
0	岡田	FP	藤本	0
4	田辺	FP	峰岸	0
0	戸村	FP	鈴木早	0
1	飯島	FP	鈴木紀	0
0	中里	FP	石井	0
0	横井	FP	大崎	2
0	塚田	FP	加藤	0
0	樋田	FP	後藤	2
10 (1)		PT		(2) 15

（審・関谷、堀之内）

両チーム共動きの激しいDFで緊迫したゲームであったが、やや脚力で日体大の方が勝っていた。後半大体大は足が止まり凡シュートが目立つところを日体大が速攻に走り大きく差が開くかに見えたがGK柴田の好守で日体大は思うように得点できず、5点差にとどまった。

▽男子決勝

日体大 28 (18－7, 10－8) 15 日大

得	【日本】		【日体】	得
0	須藤	GK	井藤	0
0	伊藤	GK	阿部	0
3	高梨	FP	松井	7
5	仲田	FP	岩本	1
2	山口	FP	長野	6
1	早坂	FP	坂本	8
2	金岡	FP	名嘉	3
0	大鐘	FP	池田	0
0	堀越	FP	溝部	3
2	稲村	FP	成願	0
0	糸	FP	酒井	0
0	馬場	FP	村井	0
15 (2)		PT		(4) 28

（審・槇、片山）

前半日大はポストを生かすプレーで攻めれば日体大は松井を中心にカットインプレーと巧シュートで互角の戦いとなった。前半日体2点リードで折り返すと後半日大は2分で同点に迫いつき8分までは互角だったが、それ以外攻め手がなくなったところを日体が速攻に走り一方的な試合運びとなった。日大は最後まで試合を拾てずにベストメンバーで健闘すべきだった。

▽女子決勝戦

東女体大 19 (12－4, 7－6) 10 日女体大

得	【日体】		【東体】	得
0	鏡	GK	高松	0
0	菅原	GK	上越	0
3	梅本	FP	磯山	3
3	山田	FP	川波	4
2	江畑	FP	酒井	1
1	佐々木	FP	小野森	0
0	佐瀬	FP	浜村	3
0	松川	FP	藤田	0
1	鈴木	FP	藤本	5
0	桑代	FP	伊藤	0
0	石井	FP	鈴木	3
0	下山	FP	増子	0
10 (1)		PT		(0) 19

（審・福田、松尾）

前半10分過ぎまで4－4の互角の戦いとなったが。それ以後日女体に精彩なプレーが見られず、逆に東女体は多彩な攻めで大きくリードした。後半に入ってやや日女体も落ちつき、4点差まで詰めよったが、東女体も落ちついたプレーを見せ快勝した。日女体は準決勝のようなプレーが見られず敗退した。

★ベストセブン

▽男子の部
- ・GK 井藤英忠（日体大）
- ・FP 松井幸嗣（日体大）
- 長野一彦（日体大）
- 名嘉賢雄（日体大）
- 高梨春雄（日大）
- 山口哲史（日大）
- 上西啓之（慶大）

▽女子の部
- ・GK 高松ひとみ（東女体大）
- ・FP 磯山久美子（東女体大）
- 川波　理子（東女体大）
- 藤本　陽子（東女体大）
- 梅本　真弓（日女体大）
- 江畑　照子（日女体大）
- 矢野　弥生（日体大）



第22回（女子15回）全日本学生選手権













こんなとき便利な ダイワ キャッシュカード。



日常のお引き出しに…

カード1枚で現金自動支払機から手軽に現金が引き出せます。通帳もハンコもいりません。サイフがわりにご利用を…。

時間外のお引き出しに…

ダイワの外壁に面したキャッシュコーナーでは、平日午前8:45～午後6:00(土曜日は午前9:00～午後2:00)まで、また マークのコーナーでは、平日午後5時、土曜午後2時まで現金が引き出せます。

ご出張やお買物の折に…

お出かけ先で現金がご入用になったときダイワの全店にあるキャッシュコーナーや マークのコーナーがお役に立ちます。

給与のお引き出しに…

給与振込制をご採用の場合は、お給料日の朝からカードを使って引き出せます。奥さまもご自宅近くのダイワでどうぞ…。

ダイワキャッシュカードは総合口座(普通預金)をご利用の方におつくりしています。お気軽にお申込みください。

あなたと明日を

預金も
信託も…

大和銀行

マークのコーナーでは設置場所により、お取扱い時間が異なる場合があります。
また、日・祝日および設置場所の休業日はお取扱いしません。

◇各地学生秋季リーグ戦②

北大、春の雪辱はたす

北海道

10月29日より旭川市で開催。男子1部では北大が急成長を続ける函大を接戦のすえ2点差で制し春季の雪辱をはたした。

東日本インカレで学んだ技術が要所にみられる大会であった。特に2部の急成長が目立ったが、1・2部共にディフェンス技術に難があり今後の一層の研究が必要である旨大会役員より指摘された。

◇男子1部

北大 12（3―4 9―6）10 函大
北大 17（6―7 11―1）8 教大釧路
北大 21（11―3 10―6）9 室蘭工大
北大 19（11―1 8―3）4 教大旭川
北大 35（21―2 14―5）7 北見工大
函大 15（9―5 6―6）11 教大釧路
函大 13（4―5 9―6）11 室蘭工大
函大 11（6―6 5―3）9 教大旭川
函大 37（23―3 14―2）5 北見工大
教大釧路 20（9―5 11―5）10 室蘭工大
教大釧路 20（11―4 9―10）14 教大旭川
教大釧路 27（11―1 16―4）5 北見工大
室蘭工大 21（8―3 13―7）10 教大旭川
室蘭工大 29（13―3 16―6）9 北見工大
教大旭川 18（9―7 9―3）10 北見工大

〔順位〕①北大5勝0敗②函大4勝1敗③教大釧路3勝2敗④室蘭工大2勝3敗⑤教大旭川1勝4敗⑥北見工大0勝5敗▽最優秀選手・大谷清介（北大）

◇同2部▼予選リーグ▽Aブロック

北星学園 21―10 北海学園
北星学園 19―13 道東海大
北海学園 16―10 道東海大

▽Bブロック

道工大 17―11 教大函館
小樽商大 22―19 道工大
教大函館 15―11 小樽商大

▽順位決定戦

北星学園 20―15 道工大
小樽商大 15―7 北海学園
教大函館 24―7 道東海大

〔順位〕①北星学園②道工大③小樽商大④北海学園⑤教大函館⑥道東海大

◇女子

教大旭川 16―8 教大釧路

▽最優秀選手・栃木瞳（旭教大）

中京、劇的な逆転優勝

東海

10月6日から11月4日まで、男子三部17校、女子一部8校で行なわれた。

男子一部は、中京大、名城大の二強が、全勝同士でぶつかり合い後半終了5分前まで、名城大が、三点差をつけ、勝負あったかのように思えたが、中京大の驚異的な粘りで、同点に追いつき、得失点で、僅か一点差で、4シーズンぶり33回目の優勝を決めた。3位以下は、混戦となったが、まとまりのある愛知学院が三位、攻撃力のある岐阜が四位、四年生の抜けた穴が埋められず名大五位、六位名古屋学院となった。

二部が、地力に勝る愛教大が、優勝し、三部は、滋賀大が、圧倒的な強さを示し優勝、二部に返り咲いた。

女子は、中京女大と、中京大が互いに、実力を出し合い、シーソーゲームを展開したが、最後に、中京女大が逃げ切り、5シーズン連続9回目の優勝を握った。

▽男子一部

中京大 30（10―4 20―8）12 愛学大
名城大 35（16―2 19―6）8 名学大
名城大 36（17―9 19―6）15 岐阜大
中京大 29（15―8 14―11）19 名学大
名大 18（12―7 6―8）15 岐阜大
名大 16（9―9 7―7）16 名学大
名城大 27（15―4 12―5）9 愛学大
中京大 41（19―6 22―8）14 岐阜大
名城大 21（11―4 10―5）9 名大
愛学大 23（9―9 14―8）17 名学大
岐阜大 23（12―9 11―10）19 愛学大
中京大 34（14―3 20―7）10 名大
岐阜大 17（7―5 10―11）16 名学大
愛学大 15（9―6 6―8）14 名大
中京大 23（10―11 13―12）23 名城大

▽男子二部

中工大	23	11-6	12-12	18	愛大(豊)
南山大	16	6-8	10-7	15	三重大
愛教大	31	15-10	16-9	19	中工大
名工大	20	10-7	10-5	12	南山大
三重大	26	10-9	16-11	20	中工大
愛教大	24	8-11	16-6	17	愛大(豊)
名工大	16	7-7	9-2	9	三重大
中工大	15	6-7	9-7	14	南山大
名工大	12	7-6	5-5	11	愛大(豊)
愛教大	24	12-8	12-10	18	三重大
南山大	18	10-5	8-11	16	愛大(豊)
愛教大	15	7-8	8-7	15	名工大
三重大	22	13-8	9-7	15	愛大(豊)
中工大	21	10-11	11-6	17	名工大
愛教大	23	11-8	12-6	14	南山大

▽男子三部

滋賀大	29	18-6	11-4	10	愛大(名)
滋賀大	29	17-8	12-6	14	日福大
東海(海)	20	11-5	9-11	16	静岡大
愛大(名)	33	17-14	16-10	24	静岡大
日福大	27	9-11	18-6	17	東海(海)
滋賀大	12	6-0	6-0	0	東海(海)
愛大(名)	12	6-0	6-0	0	東海(海)
日福大	26	12-8	14-10	18	愛大(名)
滋賀大	13	7-8	6-4	12	静岡大
静岡大	25	11-8	14-6	14	日福大

▽女子

岐阜大	22	11-2	11-2	4	日福大
中京女	31	17-1	14-1	2	愛学大
愛教大	13	4-1	9-3	4	南山大
中京大	33	16-0	17-1	1	三重大
中京女	24	14-1	10-4	5	岐阜大
愛教大	20	9-0	11-2	2	日福大
岐阜大	7	3-2	4-4	6	南山大
愛教大	11	8-0	3-1	1	愛学大
中京大	36	18-0	18-0	0	日福大
中京女	27	12-2	15-1	3	三重大
愛教大	13	8-4	5-2	6	三重大
南山大	14	7-1	7-0	1	日福大
中京大	22	9-1	13-2	3	愛学大
三重大	12	7-5	5-3	8	岐阜大
中京女	15	5-3	10-3	6	愛教大
中京大	22	11-2	11-2	4	岐阜大
中京女	23	9-1	14-2	3	日福大
三重大	9	4-3	5-4	7	愛学大
中京大	16	6-4	10-2	6	愛教大
愛学大	12	9-0	3-1	1	日福大
南山大	7	3-1	4-4	5	三重大
中京女	20	13-1	7-1	2	南山大
岐阜大	12	4-0	8-3	3	愛学大
南山大	12	3-3	9-0	3	愛学大
中京女	6	3-2	3-3	5	中京大
三重大	22	12-4	10-3	7	日福大
愛教大	8	6-3	2-4	7	岐阜大

〔各部の最終順位〕▼男子一部 1位中京大4勝1分 2位名城大4勝1分 3位愛学大2勝3敗 4位岐阜大2勝3敗、5位名大1勝3敗1分、6位名学大4敗1分 ▼男子二部 1位愛教大4勝1分 2位名工大3勝1敗1分、3位中工大3勝2敗、4位三重大2勝3敗、5位南山大2勝3敗、6位愛大(豊)5敗 ▼男子三部 1位滋賀大4勝、2位愛大(名)3勝1敗、3位静岡大1勝3敗、4位日福大1勝3敗、5位東海(海)1勝3敗 ▲女子 1位中京女大7勝、2位中京大6勝1敗、3位愛教大5勝2敗 4位岐阜大3勝4敗 5位南山大3勝4敗 6位三重大3勝4敗、7位愛学大1勝6敗、8位日福大7敗

男子1部2部入れ替え戦

名大	15	6-3	9-9	12	名工大
名学大	21	7-14	14-6	20	愛教大

名大、名学大は一部残留

男子2部3部入れ替え戦

滋賀大	28	12-11	11-12	0-1	2-1	1-0	2-0	25 愛大(豊)

滋賀大は2部へ昇格、愛大(豊)は3部降格。

大体大、激戦ぬける

関西

各部別に見てみると、男子一部に於ては予想外の混戦で、10月21日のリーグ最終日まで順位がわからないほどであった。やはりその「台風の目」は、大阪経済大であったといえよう。京都産業大に破れ、同志社と引きわけてチーム力の低下を感じさせたが、大阪体育

大を幾シーズンぶりかに破り、今季の混戦の原因をつくった。確かに各チーム間の試合得点、勝敗を見れば、力の差が狭くなったように思えるが、それがそれぞれのチームの力量が増えたようには受けとりにくかった。

　つづいて男子2部に於ては以前関西学院大がその実力を発揮し2位以下を引き離してトップにたった。2位は、春季5位の大阪府立大が夏に実力をつけ、勝運も手伝って今季のすばらしい成績を収めた。入れ替え戦に至り、関西学院大が1部7位の大阪大、大阪府立大が1部6位の関西大と対戦、ともに惜敗であった。3部以下について見ると、まず、春季に入れ替え戦で、4部から3部に昇格した奈良教育大が今季3部2位になり入れ替え戦で大阪市立大を破り、一挙に2部リーグへと躍進した。また春に2部から3部に落ちた京都教育大は、秋季3部1位となり再度2部昇格をねらったが、立命館大との入れ替え戦が14対14の引き分けに終わり惜しくも破れた。

　4部では追手門学院大、大阪学院大が共に3部昇格、5部では滋賀大が4部に昇格し来季もかなり期待のもてるチームである。つづいて女子について見ると、一部ではやはり武庫川女子大が圧倒的に強く、インカレに於てもかなりの成績を望めそうである。2位は大阪体育大で、3位以下との実力差は認めざるを得ないところである。

女子2部は京都女子大が1位の座についた。京女は、春季リーグ戦に於て入れ替え戦で関西大に破れ2部へ落ちたのだが、今季入れ替え戦で1部7位となった関西大と再び顔を合せ春の雪辱を果たし1部リーグへ復帰した。また2部2位となった関西学院大が、1部6位ではあるがよく健闘した奈良教育大を破り、1部に昇格した。

　全体を通して、男女とも下部リーグの成長が著しく目につくようになってきている。これは全体的なレベルアップであり、非常に喜ばしいことである。とくに男子の方では、入れ替え戦に於て見られたように、かなり実力が接近してきていることは明らかである。いずれにせよ、各チームとも大きな戦力的変化はなく、来季はさらに混戦が予想されそうである。

▽男子一部

大経大 25―17 阪大
近大 21―17 京産大
大体大 29―13 関大
大経大 31―18 関大
近大 25―17 同大
大体大 32―15 京産大
同大 23―23 関大
大体大 27―14 阪大
大経大 20―13 近大
京産大 17―16 大経大
近大 32―18 阪大
大体大 26―17 同大
京産大 33―20 阪大
大経大 15―15 同大
近大 28―24 関大
関大 25―20 阪大
京産大 31―29 同大
大経大 18―14 大体大
京産大 27―19 関大
同大 19―18 阪大
大体大 19―17 近大

▽同二部

大府大 16―12 立命館
関学 14―11 京大
京大 22―18 立命館
神大 17―10 大市大
関学 21―11 大府大
神大 23―13 立命館
大府大 14―14 京大
天理 12―12 大市大
大市大 14―12 京大
大府大 17―11 天理
京大 22―15 神大
京大 21―13 天理
関学 21―14 天理
大府大 22―12 神大
立命館 17―14 大市大
関学 23―12 大市大
天理 18―5 立命館
大府大 17―10 大市大
関学 24―19 神大
天理 25―16 神大
関学 22―10 立命館

▽同三部

京教大 29―7 龍大
甲南 29―18 大工大
和教大 19―10 龍大
京教大 22―12 和大
京教大 35―20 大工大
大教大 25―14 龍大
甲南 28―17 龍大
奈教大 16―13 大教大
甲南 19―19 大教大
奈教大 25―16 大工大
大工大 22―20 龍大
奈教大 23―15 和大
奈教大 30―12 龍大
和大 26―16 大工大
京教大 22―15 大教大
甲南 25―23 和大
京教大 28―17 奈教大
奈教大 19―14 甲南
和大 22―18 大教大
京教大 18―18 甲南
大教大 28―16 大工大

▽同四部

京工大 16―14 大薬大
追大 29―21 関外大
大院大 21―13 大薬大
関外大 18―15 桃大
大院大 23―8 京工大
大院大 16―11 桃大
関外大 22―22 大薬大
追大 14―13 桃大
追大 26―10 京工大
大薬大 19―17 桃大
大院大 32―14 関外大
桃大 26―13 京工大
追大 15―14 大院大
関外大 26―13 京工大
追大 24―14 大薬大

▽同五部
滋大 17—10 姫工大
神商大 20—18 京外大
滋大 30—11 大歯大
姫工大 29—12 神商大
大歯大 25—6 京外大
大外大 29—8 京外大
姫工大 18—16 京外大
大歯大 23—18 姫工大
大外大 22—14 姫工大
神商大 18—16 大歯大
大外大 16—14 大歯大
滋大 21—5 神商大
大外大 27—6 神商大
滋大 18—12 大外大
滋大 21—11 京外大

【順位】▽一部①大阪体育大学②大阪経済大学③近畿大学④京都産業大学⑤同志社大学⑥関西大学⑦大阪大学
▽二部①関西学院大学②大阪府立大学③京都大学④天理大学⑤神戸大学⑥大阪市立大学⑦立命館大学
▽三部①京都教育大学②奈良教育大学③甲南大学④和歌山大学⑤大阪教育大学⑥大阪工業大学⑦龍谷大学
▽四部①追手門学院大学②大阪学院大学③関西外国語大学④大阪薬科大学⑤桃山学院大学⑥京都工芸繊維大学
▽五部①滋賀大学②大阪外国語大学③大阪歯科大学④姫路工業大学⑤神戸商船大学⑥京都外国語大学
▽女子一部
奈教大 9—8 関大
成蹊 10—6 大教大
大体大 29—6 奈教大
武庫川 26—0 関大
大体大 14—5 京教大
武庫川 28—8 奈教大
京教大 14—7 関大
大体大 14—4 成蹊
武庫川 23—1 大教大
成蹊 9—6 奈教大
大体大 22—5 大教大
武庫川 26—4 京教大
大教大 13—8 奈教大
京教大 7—3 成蹊
大体大 19—0 関大
大教大 10—7 関大
京教大 17—6 奈教大
武庫川 23—4 成蹊
成蹊 20—8 関大
京教大 13—5 大教大
武庫川 13—4 大体大
▽同二部
和大 11—9 大薬大
関学 13—5 大薬大
滋大 11—10 関学
奈女大 11—5 神大
京女大 11—8 関学
奈女大 10—9 滋大
京女大 10—2 神大
奈女大 14—5 大薬大
関学 17—13 奈女大
京女大 14—6 滋大
滋大 11—9 大薬大
京女大 16—4 和大
大薬大 12—5 神大
和大 21—9 奈女大
京女大 18—3 奈女大
和大 11—11 神大
滋大 7—4 神大
関学 14—13 和大
京女大 13—2 大薬大
関学 14—3 神大
和大 10—9 滋大

【順位】▽一部①武庫川女子大学②大阪体育大学③京都教育大学④大阪成蹊女子短期大学⑤大阪教育大学⑥奈良教育大学⑦関西大学
▽二部①京都女子大学②関西学院大学③和歌山大学④奈良女子大学⑤滋賀大学⑥大阪薬科大学⑦神戸大学

◆入替戦
▽男子一部〜二部
大阪大 24—19 関学大
関西大 18—16 大府大
▽同二部〜三部
立命大 14—14 京教大
奈教大 16—14 大市大
▽同三部〜四部
追大 17—14 龍大
大院大 18—14 大工大
▽同四部〜五部
滋賀大 18—10 京工大
桃山大 21—11 大外大
▽女子一部〜二部
京女大 5—3 関西大
関学大 6—4 奈教大

広大福山の連覇成る

中四国

SLブームに湧く山口市を舞台に、男子1・2部・女子の18校が参加、熱戦がくりひろげられた。

男子I部は、戦前の予想通り今春優勝の広大福山と地元で巻き返しを図る山口大の一騎打ちとなり両校の対戦は今季リーグ戦を象徴するかのごとく大接戦となった。この試合、気力充実の山口大が落ちついたセットオフェンスで着々と加点、前半を13—7とリードした。対する広大福山は、持ち前の走力を発揮できず苦しんだが、後半10分過ぎから相手ミスにつけこみ一気にスパート。怒濤のゴールで残り40秒にはついに逆転、勝負あったと思われたが、山口大は残り数秒でフリースローを獲得、これをエース松浦が飛び込んで決め引き分けでピリオドをうった。この結果、優勝は最終戦までもつれこみ、結局得失点差で山口大を2点上回る広大福山が見事連覇を成し遂げた。不調の広島大はなんとか3位を確保、今春健闘の島根大は広島大と引き分けるなど各校を苦しめたが今一歩およばず4位に終った。

男子II部は広島工大が安定した

スーパー・シビック



1500・3ドアCE

'80年代、再びシビックから始まります。 7年の歳月を刻み、世界89ヵ国200万台*の実績をたずさえて、シビックはいま飛躍的な変貌をとげました。'80年代に世界が求める車とは何か。「実質」と「感性」の両面から、これを徹底して追求した結果、あのシビックを遥かに凌いだ見事に高質の車が誕生したのです。■リッター18km(1500CE 型式E-SR 10モード走行・運輸省審査値) 28km(1500CE 型式E-SR、CF(5速車) E-ST 60km/h・定地走行テスト値)の低燃費。■経済性を高めながら、スポーツカーを想わせる強烈な動力性能。■スリムなボディに驚くほど広い室内。■高級車なみの静けさと高いクォリティ。■しかもこれらを従来同様の低価格で実現したこと。先進の思想をしっかりと受け継ぎながら、再び時代を画する素晴らしい車に生まれ変わったのです。車づくりに新しい流れ(トレンド)をつくるニュートレンドカー、スーパー・シビック。いま世界の街へ。

*昭和54年8月現在 総生産台数(自工会調べ)

先んじる思想。ニュートレンドカー

CIVIC

ムリな運転はやめてガソリンを大切に。
シートベルトを締めましょう。

HONDA

本田技研工業株式会社鈴鹿製作所
●〒513●三重県鈴鹿市平田町1907●TEL鈴鹿0593:78—1212(代表)

ディフェンスで他を圧倒、全勝で栄冠を手にした。また、3校という淋しい参加の女子は、このところ5連覇の山口大が他を全く寄せつけず6連覇。どこまで連勝を続けるか注目される。

▼男子1部成績

山口大 21（8－14　13－7）21 広大福山
広大福山 23（11－7　12－10）17 島根大
広島大 23（12－10　11－7）17 愛媛大
広島大 17（8－8　9－9）17 島根大
山口大 23（14－5　9－10）15 広島大
山口大 26（12－17　14－6）23 愛媛大
島根大 19（10－6　9－13）19 愛媛大
広大福山 22（11－8　11－10）18 愛媛大
広大福山 35（23－9　12－9）18 広島大
山口大 32（13－10　19－8）18 島根大

（男子Ⅰ部順位）①広大福山3勝1分（＋27）②山口大3勝1分（＋25）③広島大1勝2敗1分④島根大2分2敗⑤愛媛大1分3敗

▼男子2部成績

広島工大 29－19 松山商科大
広島修道大 21－20 香川大
広島工大 20－12 岡山大
香川大 22－18 松山商科大
広島修道大 23－17 岡山大
広島工大 21－7 香川大
岡山大 18－18 松山商科大
広島工大 23－9 広島修道大
岡山大 21－13 香川大

（男子2部順位）①広島工大4勝②広島修道大3勝1敗③岡山大1勝1分け2敗④香川大1勝3敗⑤松山商科大1分3敗

▼女子

山口大 19－2 岡山大
山口大 18－2 岡山県短大
岡山大 10－7 岡山県短大

女子順位①山口大2勝②岡山大1勝1敗③岡山県短大2敗

金沢工大、2年連続優勝

▽北信越大学選手権（十一月・金沢美大体育館・石川県体育館）

▽準決勝

金沢工大 29－10 金沢美大
富山大 19－15 福井大

▽同決勝

金沢工大 25（12－7　13－7）14 富山大

福岡大が男女優勝

九州

第17回（女子第4回）全九州学生選手権は、10月28、29の両日、鹿児島県の隼人町営体育館と隼人工高体育館に、男子15、女子3校が参加して行われた。

男子トーナメントは、活気ある試合が多かったが、すべてのチームに共通しているのは、体力不足だ。

技術的には、かなりのものを持っているが、それも体力がなくては活きてこない。

そうしたなかで、ベストフォアに勝ちあがった福岡大、九州産大（福岡）、熊本大、鹿児島大は、比較的バランスがとれていた。

準決勝では、九州産大に疲れがのぞき、福岡大は、GK東迎の思い切りよいパスアウトなどから速攻を実らせ、鹿児島大—熊本大は鹿児島大が主力選手を欠いて精彩がなく、熊本大が制勝。

福岡大—熊本大の決勝は、動きのよい福岡大が、森、柏木、山崎らの得点力を活かし、前半で主導権を握り、タイトルを手にした。

女子リーグは、まだまだパスワーク、シュート力など、基本的な力に欠け、福岡大がディフェンスの強さで優勝を飾った。

▽男子1回戦

福岡大 22（11－6　11－6）12 宮崎大
西南学院 17（10－9　7－3）12 熊本工大
九州産大 26（15－9　11－3）12 大分大
長崎大 25（16－5　9－6）11 福岡工大
鹿児島大 26（11－3　15－1）4 西日本工大
熊本大 20（9－5　11－3）8 東和
熊本商大 23（15－3　8－6）9 九州大

▽同準々決勝

福岡大 23（15－7　8－7）14 琉球大
九州産大 20（8－11　12－5）16 西南学院
鹿児島大 24（12－4　12－6）10 長崎大
熊本大 21（13－5　8－5）10 熊本商大

▽同準決勝

福岡大 24（10－9　14－9）18 九州産大
熊本大 18（11－8　7－5）13 鹿児島大

▽同3位決定戦

九州産大 17（10－7　11－4）11 鹿児島大

▽同決勝

福岡大 22（13－6　9－5）11 熊本大

▽女子リーグ

福岡大 22（12－2　18－3）5 鹿児島女子短大
九州女子短大 37（18－1　19－1）2 鹿児島女子短大
福岡大 12（6－7　6－4）11 九州女子短大

【順位】①福岡大②九州女子短大③鹿児島女子短大

関東も日体が男女優勝

関東学生秋季リーグ戦1部及び女子は、9月22日から10月27日まで東京・駒沢体育館などで行われた。

男子は、各校の実力接近から、激しい星のつぶし合いとなったが日体、日大が第4日まで4勝でリード、3勝の筑波が追った。

最終日、1敗の日大が日体と対戦、スタンドを沸かせたが、日体は、筑波戦についで、前半に大量リード、後半、その貯金を活かして逃げこんだ。この敗戦で日大は3位、2位には早稲田が入った。

1部の得点王は54点の松井（日体）、ベストセブンは、GK井藤FP松井、坂本、長野（以上日体）犬飼、武藤（ともに早稲田）、山口哲（日大）だった。

一方、女子は、最終週を前に東女体大7勝1敗、日体5勝1分2敗、日女体大4勝2分2敗、筑波4勝1分3敗の成績になった。

この時点でも、東女体大は、マジック1だったのだが、日体1回戦を16－19で落とし、完全に、チームのリズムが狂い、にわかに、日体にチャンスが生まれ、最終戦は16－15で東女体大に逆転勝ち、史上に残る壮烈な一戦から、日体劇的な優勝を飾った。

得点王は、72点の磯山（東女体大）、ベストセブンはGK稲葉、FP矢野、梅山（以上日体）、磯山川波（ともに東女体）、江畑（日女体）、藤岡（筑波）だった。

IHF理事会（79年8月）議事録から

境井秀三・訳
（日本協会国際渉外担当常務理事）

昨年8月15、16の両日東ドイツのドレスデンで行われたIHF（国際ハンドボール連盟）の理事会議事録が、このほど日本協会へ届けられた。

同会議には、P・ヒョークベルグ会長（スウェーデン）A・S・ロマン首席副会長(スペイン)、W・クリコフ次席副会長（ソ連）、M・リンケンバーガー理事長（西ドイツ）、渡辺和美理事(日本、アジア担当）ら、IHFの首脳13名が出席した。以下は議事録の主要点である。

◆IHFの財政

（資金概況）一九七九年六月三〇日現在の貸借対照表が提出された。（36万9千スイスフランの貸と48万1千スイスフランの借)。会計ペターセンは詳細にわたり個々の項目を説明した。一つ考慮に入れる要のあることはヨーロッパカップ一九七八／七九年シーズン決勝の収入が貸借対照表に含まれていないことである。というのは技術的理由からドイツマルク特別口座になされた払込は額が最終的に確定してからスイスフラン口座に決済されるからである。

貸借対照表が承認されたのでチェコでの一九七八年女子世界選手権大会収入が入れられた。

主な未収金と未払金を考慮に入れるとIHFの現在の資金は40万スイスフランになる。

理事会はこの貸借対照表に満足の意を表明した。

（長期投資）IHFが将来とも真の財政上の留保を保持し、健全な財務上の発展の基盤に立つための9万スイスフランの長期投資が追加され、現在総額25万スイスフランとなった。

（外部IHF口座）コメコン地域に2つの当座勘定口座を開設するのが良いと考えられる。その口座は将来特定の目的のため使われる。

（IHF講師の経費負担）IHF講師の経費の関係で困難な事態がしばしば生じているのでこの問題について詳細にわたり討論された。まとめて言えば、現実にIHFのためのシンポジウムや講習会で講義をしている限り全ての経費をIHFが負担することとする。

オリンピックソリダリティと協力して方策が行なわれる場合オリンピックソリダリティが旅行と接待の費用を負担し、一方IHFが協力金を払う。

IHF講師がいわゆる普及業務のため他の国へ派遣される場合主催国が必要な費用を負担するべきかどうか各場合明確にしておく必要がある。もし主催国が負担するのでない場合これら費用はIHFによりカバーされるべきである。

（資格停止）常務会はインドとモロッコ協会が何回かの催促にかかわらず未払の登録金を払ってないので資格停止にすることが決められた。

アルゼンチンはその財務上の義務を果したので資格停止は解除された。

アフリカ代表パパカール・フォールはモロッコも又資格停止にすべきであると報告した。Dr・ブエニングはこの場合IHFと大陸協会の統一した解決が計られるべきであると主張し、そのことが承認された。

◆世界選手権大会開催国協会に対する一般的要望

COC（組織・大会委員会）委員長クルト・ワドマークは次のとおりのべた。—世界選手権大会開催国協会は自国チームが属するのと同じレベル（A・B又はC世界選手権大会）にあることが望ましいが、Bグループの協会がA世界選手権大会開催に応募することを可能ならしめるべきである。B世界選手権大会開催を希望するCグループ協会についても同じくである。

原則として理事会はこの基本方針を承認した。そのような場合開催国は自動的にその上位グループ大会に参加資格を得ることになる。

◆IHF行事の割当と確認

（一九八二年の第8回女子世界選手権大会）ハンガリーハンドボール協会が前回総会ですでにこの第8回世界選手権大会の開催に関心があることを表明している。公式の開催申込みは受理され、イストバン・マダラッツはこの大会が一九八二年十二月一日から十三日まで行なわれるというスケジュール他の情報を理事会メンバーに渡した。

3つの第1次ラウンド各グループの試合はギョール、スジエジドおよびブタベストで行なわれる。

決勝の場所は現在一万人収容の新スポーツホールが建設中のブタペストである。ホールは一九八一年末までに準備完了する。

理事会は満場一致で第8回女子世界選手権大会をハンガリーハンドボール協会に割り当てるべきことを決めた。

（一九八一年の第3回女子および男子ジュニアー世界選手権大会）理事会は満場一致で一九八一年第3回男子ジュニアー世界選手権大会をカナダに、一九八一年第3回女子ジュニアー世界選手権大会をポルトガルに割り当てられるべきであると決定した。

（スイスにおける一九八一年トレーナーシンポジウム」CCM（コーチ・手法委）委員長ジョニイ・クンスト・ゲルマネスクの報告によると、このIHFトレーナーシンポジウムの初期準備は開催国のスイスハンドボール協会の協力の下に初められた。

シンポジウムは一九八一年5月17日から24日までマグリンゲンのスポーツ・体育トレーニング連邦学校で開催される。出席者数は80人に制限されようとしている。

クンスト・ゲルマネスクはこのシンポジウムの主なトピックのいくつかを公表した。

理事会はここでとり上げられるトピックは何がハンドボールの発展に最も良く貢献するかという観点から選ばれるべきであるという勧告を追加した。CCMは講習内容を再検討するべきである。

（オーストリアに於ける一九八一年レフェリー講習会）一九七九年IHF総会で決められたように

次のIHFレフェリーコースは一九八一年オーストリアで開かれるPRC（競技規則委員会）委員長カール・E・ワンは開催国がアレンジした日は一九八一年8月15日から22日であると述べた。場所はウイーン近くのシュドスタッド連邦スポーツセンターである。出席者はPRCメンバー、講師団、各国協会チーフレフェリー（審判長）および約25組のファーストクラスレフェリーに開かれている。コース参加者が当面する主な課題は一九八一年版新規則に多くさかれるであろう。

◆一九八一年版競技規則の準備状況

現在の版の競技規則は一九八一年八月一日までしか有効でないという点にふれられた。

新しい一九八一年版新規則のa)編集上の改正点、b)構成上の変更点に関する基礎的検討材料について競技規則委とコーチ、手法委の合同会議が案を出した。この検討材料は各国協会に3か月の検討のために送られる。編集上の改正案の準備はできた。構成上の変更についてもその基本的考え方はまとめられたので競技規則委とコーチ・手法委の合同会議の前に説明書とともに送付されることになろう

クンスト・ゲルマネスクはこの合同会議が一九七九年11月28日から12月2日までブカレストで行なわれ、組織・大会委委員長クルト・ワドマークおよび専務理事ペップマイヤーもこの会議に出席することになっているとした。今後の計画としては全ての基礎的検討材料が一九八〇年一月に各国協会に送り出され、それに対して一九八〇年四月までにコメントをつけて意見を出してもらうことになっている。

◆IHF加盟申請 パレスチナ協会の加盟申請が長い討論の対象になった。結局会長ヘグベルグが次のクエート訪問の時パレスチナの関係の人々と話し合い、ガザが仮加盟メンバーとして受け入れられるという妥協案を進めるという提案に理事会は満場一致同意した。理事会メンバーがこの問題を積極的に解決しようとする態度を持ちIHF規約に反することなくパレスチナ人を受け入れ可能な方法を発見することを望んでいることが明らかになった。続いて、一九七九年7月7日付書簡で中華人民共和国（中国）ハンドボール協会がIHF加盟申請をしていることが明らかにされた。加盟申請と共に特別声明と中華人民共和国ハンドボール協会規約が添付されていたこれらの申請書類はIHF各規程類に合致したものであると認められた。

「中華人民共和国」という名称に関する条件が討論され、そしてIHF規約第24条（加盟資格の喪失）にふれられた。（台湾問題）

規約によれば加盟資格は関係国協会がもはや一国の協会としての性格をすでに持たなくなった時にのみ失われる。また加盟資格の喪失については総会のみが投票で決めることができ、その決定には三分の二の多数が必要である。

現在の状態としては、IOCが中国問題の最終的解決の方法を見出そうとしている。一九七九年十月日本で行なわれるIOC会議で決定が出ることが期待される。

IHF理事会は中華人民共和国および「中華民国」（台湾）が共に解決のため進められているIHF提案を受け入れることになるであろうと見ている。

討論で、中華人民共和国はIHFに受け入れられる権利を持っていると述べられた。理事会としてはIHFが現時点では決定が行なえないという満場一致の意見となった。IOCの解決を待つとともに、会長と理事長が一九七九年十一月南京で行なわれる第2回アジアハンドボール選手権大会を訪問して、この件について討論してくるのが良いという提案が出され了承された。もし相互解決が計れるならば、IHF規約に従い、中華人民共和国が仮加盟国として受け入れられるべきでないという理由はない。

◆モスクワオリンピック補欠国

IHFはモスクワ大会の補欠国としてハンガリー（男子）とポーランド（女子）を指名し、両国は指名を確認した。スコアボードの表示として英語がIHFにより選ばれた。また事務局は指定された時間のハンドボール試合の特別切符を発注した。IHFの公式B信任状については会長、理事長と同様組織、大会委員長クルト・ワドマークが技術サイドの責任者として、また専務ペップマイヤーが総括担当として出されるべきであるとされた。またハンドボール大会の全陪審員（ジュリー）にも信任状が附与されるべきであるとされた。組織委は他の行事のチケットがフリーな日のため貰えるようにすることを確認した。

リンケンバーガーは続けてIHF技術代表およびレフェリーに対する支払は未決定であると述べたIHFはテレビからの収入に前進があると期待しているが、何パーセントが入ってくるかの決定は10月の次のAGFIS総会で決められる。

もう一つの問題は技術フィルムの製作の問題である。現在のところIOCがこの問題に介入している。未確認であるが組織委との協定でIHFは無料でハンドボールの10本のコピーを受取ることになる。

◆モスクワに於けるIHF総会

ご存知のとおり、第18回IHF通常総会はオリンピック競技の始まる前一九八〇年7月16日、17日にモスクワに於て開催される。この件に関しウラジミール・クリコフは計画されている全ての国際協会の総会は市の中心から車で約15分の国際貿易センターで行なわれ総会出席者は2つのホテルに収容されると報告した。

また、理事長リンケンバーガーはこのモスクワ総会で取扱われる規約改正提案を理事会に提出した提案は詳細かつ公平に理事会メンバーにより審議された。

基礎的な解決方向が全ての点について示され、最終的な形に整えるため常務教会に渡された。IHF規約に従って、これらの理事会提案は所要の時期に他の総会関係文書と共に加盟メンバーに送られる。

（了）

実業団女子選抜韓国へ

全日本実業団連盟は、2月5日から15日まで、実業団女子選抜チームを韓国に派遣する。

選手・役員等詳細はまだ決定されていないが、役員4名、選手14名の選手団となろう。

なお韓国では、4～5試合を予定している。

日本協会専門委員会だより

総　務

またしても突然の開催となったオリンピック男子アジア代表決定戦。昨年二月の東独女子、七月の西独男子といずれも超ビッグゲームが相手国の突然の来日決定や日程変更により電波に乗せることができなかったが、今回もＩＨＦの中国仮加盟とアジア代表決定戦日本開催の決定が余りにも電撃的だったため、ＴＶによるハンドボール普及のチャンスをみすみす逃がしてしまった。

ＮＨＫ放映（全日本総合男子決勝の放映を予定していた）を可能にするため全日本総合男子のゲームを一月以降に繰下げることも検討したが、体育館や学生の試験日程などでこれも不可能とされ、ＴＶ放映のないまま、しかも地の利の悪い駒沢屋内球技場、名古屋市体育館を関係者のご協力でセットしたが、その名古屋大会の日程が中国選手団の航空機のエンジントラブルや振替便の延着などで一日延期となる始末で、中国の仮加盟で日本は全く振り回されどおしだった。それにしても、愛知県協会が伊藤理事長のもと一丸となって、このアクシデントを乗り越えてくれたことはまことに感服に堪えない次第である。

日本が勝てばモスクワ行き切符第一号の決定ということで、報道機関も非常に関心をもって報道してくれたので、両会場とも満員の観衆に湧いた。

前記のような悪条件と日本側のかなりの経済負担のため、協賛会社には過大な協賛金をお願いし、また関東学連にも入場券の引受をしてもらったり、正にハンドボール界みんなのバックアップでオリンピック参加の権利を得たのである。代表選手のモスクワでの活躍をお願いしたいものである。

通訳を兼ねていた秒書長（中国体育総会国際部）の蔡さんは、中国側の事情による日程変更を丁重に詫びていたが、中国の選手団も二日間空港でかん詰にされていたのである。中国の選手は明らかに疲れていた。

しかし中国の選手団は、一二月中旬にしてはあたたかい一一日午後、さわやかに日本を発って行った。品川プリンスホテルの女子従業員は総出で、バスが渋滞の街の中に消えるまで手を振っていた。

（大野金一）

★　☆　★　☆　★　☆

編　集

機関誌の発刊が遅延し、読者の皆様に多大な御迷惑をおかけしましたことを、深くお詫びします。昨年4月新メンバーによる編集活動を開始して以来、機関誌発刊のおくれをもどすべく努力してきた。当初2カ月程度のおくれは、2カ月で回復できるものと安易に考えていたが、現状回復に約八カ月間費やしてしまった。

今後皆様にご迷惑をかけないよう、編集委員一同全力をつくすつもりです。

4月の新メンバーによる編集委員会で、機関紙の性格について検討した。

そこで確認されたことは、以下

一、協会の広報誌的性格を深める。

三、読者との対話ある機関誌作りをする。

三、できる限り、全国の試合を記録する。

の三点だった。

まず広報誌的性格を深め、協会の活動を広く全国の読者に理解していただくために、協会・専門委員会及び各連盟のコーナを設けましたが、このコーナー自体の是非とその内容について意見を聞きたく思っています。活発な意見をお願い致します。

次に第二点の対話ある機関紙についてですが、現在まで実現できていません。協会に対して何か疑問や質問があれば、意見をお寄せ下さい。また協会に対してだけでなく、指導上の問題点や技術練習上の問題点など幅広く質問や意見を取り上げる所存です。そして今後は編集委員会から問題を提起し、紙上討論会をも予定しています。

対話ある機関誌作りのために皆様の意見を深く希望致します。

三番目の記録については、編集委員会の組織がいまだ円滑に作動していず、深く反省しているところです。早急に全国編集委員会を開き、全国の試合記録が円滑に集稿できるよう組織を強化するつもりです。

以上の3点を充実すれば、機関誌が単なる協会の広報誌でなく、読者と協会による、協会のための意義ある機関誌となる事と考えます。

（平岡）

投書宛先

〒211　東京都渋谷区神南一－一－一
岸記念体育館内
日本ハンドボール協会
編集委員会

海外ニュース

早川清孝
（体協派遣コーチ）

バルト海杯（Ostsee Pokal）
ソ連、東独をおさえる

80年代の幕開けにふさわしいバルト海カップ争奪戦が、1月8日から13日まで西独（ハンブルグ・キール・リュベック・ベルリン）で開催された。

地元西独はA・B両チームを出場させたが、昨年のスーパーカップ獲得の原動力になったキャプテン・ハイネル・ブラントは予選リーグ2試合には出場しなかった。またクルス・フェイは大学の授業の都合で全く出場しなかった。

バルト海カップ成績

○予選リーグ	試	勝	分	敗	得：失
＜Aグループ＞					
東ドイツ	3	2	1	0	58：46
西ドイツA	3	2	1	0	52：43
アイスランド	3	1	0	2	48：58
ノルウェー	3	0	0	3	47：58
＜Bグループ＞					
ソビエト	3	3	0	0	65：45
西ドイツB	3	1	1	1	51：58
デンマーク	3	1	0	2	52：57
ポーランド	3	0	1	2	55：63

○順位決定戦

優勝	ソビエト
2位	東ドイツ
3位	西ドイツA
4位	西ドイツB
5位	デンマーク
6位	アイスランド
7位	ポーランド
8位	ノルウェー

□予選リーグ

▽Aグループ

西ドイツA 19—16 ノルウェー
東ドイツ 25—15 アイスランド
西ドイツA 18—12 アイスランド
東ドイツ 18—16 ノルウェー
西ドイツA 15—15 東ドイツ
アイスランド 21—15 ノルウェー

▽Bグループ

西ドイツB 16—13 デンマーク
ソビエト 19—15 ポーランド
デンマーク 22—18 ポーランド
ソビエト 23—13 西ドイツB
西ドイツB 22—22 ポーランド
ソビエト 23—17 デンマーク

順位決定戦

▽7・8位決定戦

ポーランド 23—16 ノルウェー

▽5・6位決定戦

デンマーク 28—20 アイスランド

▽3位決定戦

西ドイツ（A） 20（10—8、10—7）15 西ドイツ（B）

▽決勝戦

ソビエト 18（7—6、11—10）16 東ドイツ

後記　早川清孝

○…西ドイツA×東独戦は、全国テレビ中継された。

西独はそれまで欠場していたハイナー・ブラント（Heiner Brand）を出場させ、必勝を期しての戦いであった。

前半は相方ともに固さが目立ちペナルティ合戦といった様相で、一進一退の結果6—6で前半を終了した。西独はエーレット・アルノ（Ehret・Arno）が3点、マイジンガー・ペーター（Meisinger Peter）が2点と両選手が目立った動きをした。

後半に入り、前半戦全く良い所のなかったブンダリッヒ・エルハルト（Wunderlich Erhard）が豪快なステップロングシュート2本とPT1本の計3連続得点と活躍し、一時は西独有利の展開となった。

しかし、その後西独は明らかなノーマークシュート2本に、PT3本を落し、結果的には15—15と引き分けに終った。

これは地元の利を活した（レフェリー・スイス）の西独有利の笛は、あまりにもひど過ぎる。実際に観戦していた西独人達も、あれはないと大声をあげる始末だった。

ヨーロッパ球界では、ホームチーム絶対有利と聞いていたが、これほどまでとは思いもよらず唖然とさせられる思いであった。

国をあげての戦いとはいえ、いかなる手段をも選ばず、勝たねばならぬ現状に多少淋しい思いである。逆の見方をすれば、この様な逆境に立たされても、なおかつそれに打勝っていく精神力や忍耐力の素晴らしさが真の実力と思える。

一方東独は派手さのない、全員でのコンビネーションハンドボールに徹し、ミスの少ないキメ細かい攻撃展開は、良く似ている。

○…決勝は東独×ソビエトで行なわれたが、最近のハンドボールの特徴とも言うべきパワーを活し個人技を多用した攻撃が随処に観られ、特にソ連長身からくり出す豪快なハンドボールとは対照的な組織プレーを主体とした東独のゲームで流石にみごたえのある展開であったが、やはり総合力に勝るソ連がそつのない攻防で勝利を得た。

以上

（早川レポートより）

◇　◇　◇　◇　◇

オリンピック問題

日本男子チームは、昨年12月に行なわれたモスクワオリンピックアジア代表決定戦で決勝し、モスクワへの切符を手に入れた。

日本チームがこの代表権を手に入れるまでには苦難の連続だった台湾でのアジア予選で韓国と激戦の末、勝利を得てモスクワ出場の喜びをかみしめたのもつかの間だった。この直後に中国のIOC加盟が決定し、再度中国とアジア代表決定戦が行なわれることになった。

この対中国決定戦の勝利で、今度こそオリンピック出場をだれもが確信したに違いない。

ところがそこに降ってわいたのが、ソ連のアフガニスタン軍事介入とそれに対抗するアメリカのオリンピックボイコット問題である。

西側諸国は現在のところアメリカに同調の構えを見せているが、日本としての態度はまだ不明である。

そこでこの問題を荒川理事長（強化部長兼任）に聞いてみた。

「日本協会としては、JOCの最終決定を待つつもりである。その決定がどうなろうとも、日本協会はモスクワオリンピックに備え最善の努力を続けるつもりである」と述べている。

各地の記録

蒲郡ク、没収勝ち

第10回東海クラブ選手権は11月18日名古屋の愛知県体育館に、男子8、女子4チームが参加して行われた。

男子は、有力とみられたセブンスター（三重）、桜丘会（愛知）らが次々と敗れ、波乱ぶくみの展開だったが、決勝となった蒲郡ク（愛知）×岐阜南ク（岐阜）も、試合途中、岐阜南クが途中棄権、蒲郡クの没収勝ちという珍しいケースになった。蒲郡クは、4年ぶり4回目の優勝。

女子は、名門・半田高のOGによる半田シニア（愛知）が初優勝を遂げた。

▽男子1回戦

富士ク（静岡）18（5−7、8−6、…、3−1、2−2）16 セブンスター（三重）

岐阜南ク（岐阜）21（10−13、11−5）18 桜丘会（愛知）

高山ク（岐阜）16（8−7、8−8）15 鵜の森ク（三重）

蒲郡ク（愛知）17（8−3、9−4）7 御殿場ク（静岡）

▽同準決勝

岐阜南ク 21（10−8、11−6）14 富士ク

蒲郡ク 25（12−4、13−9）13 高山ク

▽同決勝

蒲郡ク 没収試合 岐阜南ク

▽女子1回戦（＝準決勝）

半田シニア（愛知）11（7−2、4−2）4 笠松ク（岐阜）

城北ク（静岡）14（7−4、7−5）9 泗商ク（三重）

▽同決勝

半田シニア 14（7−0、7−4）4 城北ク

讃岐ク、2連勝を飾る

第34回四国一般男子選手権は、昨秋9月26日、徳島県辻高球技場四国4県の代表チームが集まりトーナメント法式で行われ、前年につづき讃岐ク（香川）が、高知クの反撃を振り切って、2連勝を遂げた。

▽1回戦（＝準決勝）

高知ク（高知）19（10−6、9−6）12 丸善石油松山（愛媛）

讃岐ク（香川）37（14−8、23−13）21 自衛隊小松島航空隊（徳島）

▽決勝

讃岐ク 24（15−4、9−17）21 高知ク

クラブ選手権は松山ク

第8回四国クラブ選手権大会は昨年11月11日松山北高で、松山ク（愛媛）×坂出ク（香川）の決勝戦を行ない、松山クが初優勝した。

松山ク（愛媛）33（18−10、15−14）24 坂出ク（香川）

初の北信越は北農ク

第1回北信越クラブ選手権は、11月金沢美大で3県の代表が集まり行われ、北農ク（長野）が、初代チャンピオンとなった。

これで、昭和45年から日本協会が奨励していたブロッククラブ選手権大会は、中国地域を除いて、全ブロックが出揃った。（注・中国ブロックは、学生、実業団を含めた一般選手権を開いている）

北農ク（長野）19−16 あすなろク（石川）

北農ク 21−10 柏崎ク（新潟）

あすなろク 25−17 柏崎ク

【順位】①北農ク②金沢あすなろク③柏崎ク

大同特殊鋼危気なし

▼第12回愛知リーグ（11月・名古屋市体育館）

大同特殊鋼 30−9 愛知教員

トヨタ車体 23−9 桜丘会

大同特殊鋼 33−8 トヨタ車体

愛知教員 20−18 桜丘会

トヨタ車体 18−13 愛知教員

大同特殊鋼 35−7 桜丘会

【順位】①大同特殊鋼②トヨタ車体③愛知教員④桜丘会

（注）今年に限り愛知学連代表は不参加

彦根勢、タイトル握る

▼滋賀県高校秋季総合体育大会（10月・11月・大津商業高校）

▽男子決勝リーグ

彦根東 12−12 八幡工

米原 19−15 能登川

八幡工 15−8 能登川

彦根東 16−11 米原

米原 9−7 八幡工

彦根東 19−12 能登川

【順位】①彦根東②米原③八幡工

▽女子決勝リーグ

彦根西 7−4 彦根南

大津商 7−6 守山女

彦根南 6−5 守山女

大津商 6−5 彦根西

彦根南 5−3 大津商

彦根西 13−5 守山女

【順位】①彦根西②彦根南③大津商

男女とも佐世保に栄冠

▼第31回長崎県民体育大会（11月島原農業高校）

▽男子リーグ

佐世保 31−17 長崎

佐世保 23−19 口加OB

口加OB 24−10 長崎

▽女子リーグ

島原 27−7 長崎

佐世保 21−15 島原

佐世保 24−15 長崎

【総合順位】①佐世保②長崎③島原

羽島主婦ク、市民大会に1位

▼第3回岐阜県羽島市民体育大会（11月・羽島市）

▽男子

羽島高 20−16 羊羽球会

▽女子

羽島主婦ク 7−5 羽島南嶺会

海自下総、三井石油らおさえる

▼千葉県実業団秋季リーグ（12月千葉）

▽一部リーグ

出光千葉 16−15 日産石油化学

三井石油化学 24−14 海自木補所

海自下総 17−15 丸善千葉

丸善千葉 16−15 海自木補所

海自下総 20−18 三井石油化学

丸善千葉 12−11 日産石油化学

三井石油化学 20−20 出光千葉

三井石油化学 30−11 日産石油化学

丸善千葉 11−11 出光千葉

海自下総 20−10 海自木補所

日産石油化学 12−11 海自木補所

海自下総 19−16 日産石油化学

出光千葉 18−12 海自木補所

三井石油化学 19−16 丸善千葉

海自下総 25−17 出光千葉

【順位】①海自下総②三井石油化学③出光千葉④丸善千葉⑤日産石油化学⑥海自木補所

▽二部リーグ

陸自下志津 13−7 東洋サッシ

海自館山 30−12 陸自下志津

東電千葉 27−8 東洋サッシ

海自館山 12−0 第一ヘリ団

東電千葉 12−0 第一ヘリ団

東電千葉 12―0 陸自下志津
海自館山 12―0 東洋サッシ
海自館山 12―0 東電千葉
【順位】①海自館山②東電千葉③陸自下志津④東洋サッシ⑤第一ヘリ団
▽一部～二部入替戦
海自木補所 18―15 海自館山

女子で結城二高勝つ

▼第29回茨城県総合選手権大会（12月・勝田高）
▽男子準々決勝
茨城大 22―16 日本原研
自衛隊勝田 27―20 筑波大
鉾田ク 13―8 土浦一高
茨苑ク 34―20 勝田高
▽同準決勝
自衛隊勝田 16―15 茨城大
茨苑ク 21―11 鉾田ク
▽同決勝
自衛隊勝田 28（11―6 17―9）15 茨苑ク
▽同3位決定戦
茨城大 18―16 鉾田ク
▽女子準々決勝
結城二高 8―4 鉾田二高
竜崎二高 15―2 茨城大
潮来高 10―3 太田二高
桜芳ク 14―7 麻生高
▽同準決勝
結城二高 15―8 潮来高
竜ケ崎二高 10―7 桜芳ク
▽同決勝
結城二高 12（5―3 7―5）8 竜ケ崎二高
▽同三位決定戦
潮来高 10―6 桜芳ク

大崎愛好会が9戦全勝

▼54年度東京都クラブリーグ
▽男子1部
大崎愛好会 24―15 稲球会
大崎愛好会 23―15 井草ク
大崎愛好会 23―18 荏原ク
大崎愛好会 21―16 神代ク
大崎愛好会 18―12 サンク
大崎愛好会 12―0 柏ク
大崎愛好会 19―9 LBC
大崎愛好会 12―0 江東ク
大崎愛好会 34―6 サミッツ
稲球会 17―14 井草ク
稲球会 28―15 荏原ク
稲球会 29―13 神代ク
稲球会 21―11 サンク
稲球会 34―15 柏ク
稲球会 25―6 LBC
稲球会 12―0 江東ク
稲球会 12―0 サミッツ
井草ク 18―18 荏原ク
井草ク 26―14 神代ク
井草ク 12―0 サンク
井草ク 12―0 柏ク
井草ク 16―12 LBC
井草ク 34―11 江東ク
井草ク 26―13 サミッツ
神代ク 19―17 荏原ク
荏原ク 12―0 サンク
荏原ク 17―13 柏ク
荏原ク 19―12 LBC
荏原ク 14―9 江東ク
荏原ク 14―13 サミッツ
サンク 23―15 神代ク
神代ク 17―16 柏ク
神代ク 19―13 LBC
神代ク 12―0 江東ク
神代ク 12―0 サミッツ
柏ク 12―0 サンク
サンク 19―10 LBC
サンク 26―17 江東ク
サンク 35―14 サミッツ
LBC 17―15 柏ク
柏ク 17―13 江東ク
柏ク 18―8 サミッツ
江東ク 17―10 LBC
LBC 23―12 サミッツ
江東ク 12―0 サミッツ
【順位】①大崎愛好会②稲球会③井草ク④荏原ク⑤神代ク⑥サンク⑦柏ク⑧LBC⑨江東ミカワ・ク⑩サミッツ
▽女子
美和ク 8―5 武蔵野ク
美和ク 20―3 若木会
美和ク 19―5 府中ク
美和ク 12―0 桐朋OGク
武蔵野ク 30―3 若木会
武蔵野ク 17―5 府中ク
武蔵野ク 12―0 桐朋OGク
若木会 8―5 府中ク
若木会 12―0 桐朋OG
府中ク 7―3 桐朋OG
【順位】①美和ク②武蔵野ク③若木会④府中女子ク⑤桐朋OGク
▽男子入替戦1部―2部
②世田谷ク 19―10 LBC①
②桜門会 26―9 江東ク①
▽同2部―3部
②SKC 15―13 教駒ク③
②日産ク 11―10 セブンスター③
▽同3部―4部
④早苗クB 12―10 慶丘会③
③明友会 15―14 羽田ク④

氷見シニア、氷見ク破る

▼富山県秋季選手権
▽成年男子準々決勝
桜樹クA 12―11 富山教員
氷見シニア 17―6 FHC
富山想球会 16―6 富山大学
氷見ク 17―8 桜樹クB
▽同準決勝
氷見シニア 18―14 桜樹クA
氷見ク 17―10 富山想球会
▽同決勝
氷見シニア 17（7―6 10―10）16 氷見ク
▽同女子1回戦（1試合）
桜球会 19―5 富山想球会
▽同決勝
桜球会 13―8 小杉高OG

中学大会記録

▼第2回群馬県中学校新人大会（11月・前橋三中）
▽男子準決勝
高崎高南中 13―8 甘楽三中
富岡東中 10―4 桐生西中
▽同決勝
富岡東中 13（5―4 8―2）6 高崎高南中
▽女子準決勝
甘楽三中 11―1 高崎塚沢中
桐生広沢中 11―5 高崎高南中
▽同決勝
桐生広沢中 13（11―0 2―3）3 甘楽三中

▼第1回岐阜地区中学生新人大会（10月・各務原市）
▽男子準決勝
笠松中 7―3 鵜沼中
那加中 11―6 蘇原中
▽同決勝
笠松中 11（3―4 8―6）10 那加中
▽女子準決勝
那加中 12―0 厚見中
長森中 6―1 笠松中
▽同決勝
長森中 7（4―2 0―2 3―0 0―0）4 那加中

▼第2回岐阜県少年団大会（11月・羽島市）
▽男子準決勝
羽島少年団 17―16 下之保少年団
金華少年団 17―3 笠松少年団
▽同決勝
羽島少年団 17―7 金華少年団
▽女子
笠松少年団A 8―7 鷺山少年団

各地の記録をどしどしご寄稿下さい。（編集部）

アディダスで正しいテクニックを身につけたい。



3155 Napoli
ナポリ
●ベロアレザー甲皮●赤×白
●シェルソール
¥8,500(標準小売価格)

3150 Athen
アテネ
●ベロアレザー甲皮●青×白
●シェルソール
¥8,500(標準小売価格)

デンマーク・ワールドチャンピオンシップでも、優勝ドイツチームを始め、世界16ヶ国の代表選手の78%もがアディダスハンドボールシューズでした。そのヒミツは、誰にも負けない経験と実績、そして技術開発力を背景に、世界のトップ選手のアドバイスを商品開発にダイレクトに生かしているからに他なりません。ストップ、ターン、グリップに理想的なアディダス独自のソール設計。足への文句のないサポート感。加えて、足を良く守るヒールカウンター、パッド…。大切なゲームであなたに必要なのはこのアディダス機能です。

adidas®

The science of sport.

The all-sports people


●お求めはadidas特約店で


発売元 兼松スポーツ用品株式会社 〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3 ☎06-305-1431 〒130 東京都墨田区緑2-12-3 ☎03-634-1411

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一八二号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五五年一月二十五日印刷 昭和五五年二月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）